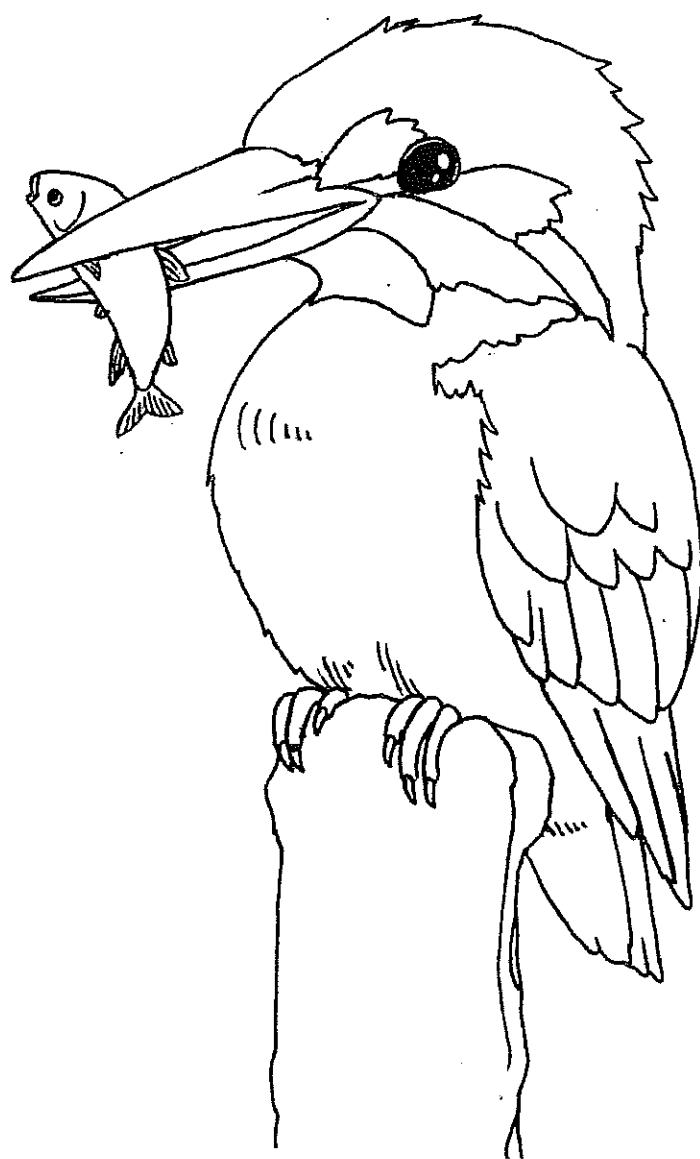


自然のたり

Vol. 6

平成 13 年 7 月～平成 15 年 3 月
(No.251～No.300)



財団法人 武藏野スポーツ振興事業団
野 外 活 動 セ ン タ ー

はじめに

武蔵野市は東京23区に接しており、市の緑被率は昭和47年の33.3%から平成6年には22.6%と毎年のように緑被率が下がっていましたが、行政による自然環境の保護、緑化保全・回復等が徐々に浸透してきたため、平成12年には24.4%に回復してきました。緑被率が上昇すれば地球温暖化の防止や自然の回復のみならず、武蔵野から姿を見ることのできなくなった動植物の回帰を整える条件を創出することになります。

さて、「武蔵野自然クラブ」は市内の児童・生徒を中心に昆虫、植物、野鳥、天文、地質、化石など広範な分野に亘って自然観察をするために、昭和48年に設立いたしました。

ここでは主宰の須田孫七先生を筆頭に、それぞれの分野の専門家による指導の下に、毎年多くの児童・生徒が学校教育では習得することのできない自然の営みや現象を学び、学年・異年齢を超えて規律正しい団体生活を楽しんで、大変大きな成果を上げています。

お蔭様で「武蔵野自然クラブ」は一昨年30周年という輝かしい歴史を打ち立て、引き続きその歴史を刻み続けております。

野外活動センターでは市民と自然を繋ぐ架け橋の一つとして、リーフレット「自然のたより」を発行し普及・啓発に努めています。今回は251号（平成13年7月）から300号（平成15年3月）までを小冊子にまとめ、「自然のたより vol.6」として発刊することになりました。

多くの皆さんにご愛読をいただき、自然についての仕組みや大切さに関心を持っていただければ幸いです。

なお、発刊にあたり、お忙しい中ご協力をいただいた執筆者、編集者の皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。

（財）武蔵野スポーツ振興事業団・野外活動センター長 渡邊郁雄

目 次

No.251	「市内の野鳥 今昔 その3」(岩田 仁).....	4
No.252	「市内の野鳥 今昔 その4」(岩田 仁).....	5
No.253	「市内の野鳥 今昔 その5」(岩田 仁).....	6
No.254	「市内の野鳥 今昔 その6」(岩田 仁).....	7
No.255	「市内の野鳥 今昔 その7」(岩田 仁).....	8
No.256	「市内の野鳥 今昔 その8」(岩田 仁).....	9
No.257	「市内の昆虫 何種類いるの?」(須田 孫七).....	10
No.258	「観音崎 たたら浜の生き物 ①」(小川 賢一).....	11
No.259	「観音崎 たたら浜の生き物 ②」(小川 賢一).....	12
No.260	「武藏野市の野鳥は37種、外来種3種」(井口 豊重).....	13
No.261	「武藏野市の野鳥 地域別の状況」(井口 豊重).....	14
No.262	「ハトに餌やらないで! ?」(井口 豊重).....	15
No.263	「ツバメ、10年で半数に減少」(井口 豊重).....	16
No.264	「ツバメは隠れて巣作り、原因は?」(井口 豊重).....	17
No.265	「歳時記の双翅類昆虫一蛇一」(小川 賢一).....	18
No.266	「歳時記の双翅類昆虫一蚊①一」(小川 賢一).....	19
No.267	「歳時記の双翅類昆虫一蚊②一」(小川 賢一).....	20
No.268	「歳時記の双翅類昆虫一蠅一」(小川 賢一).....	21
No.269	「歳時記の双翅類昆虫一蚋・がんぼー」(小川 賢一).....	22
No.270	「歳時記の双翅類昆虫一まくなぎ・搖蚊一」(小川 賢一).....	23
No.271	「武藏野市の昆虫観察ポイント チョウ<その1>」(山崎 誠).....	24
No.272	「武藏野市の昆虫観察ポイント チョウ<その2>」(山崎 誠).....	25
No.273	「武藏野市の昆虫観察ポイント トンボ<その1>」(山崎 誠).....	26
No.274	「武藏野市の昆虫観察ポイント トンボ<その2>」(山崎 誠).....	27
No.275	「武藏野市の昆虫観察ポイント コウチュウ<その1>」(山崎 誠).....	28

No. 276	「武藏野市の昆虫観察ポイント コウチュウ<その2>」(山崎 誠).....	29
No. 277	「ロシア春夏脳炎」(小川 賢一).....	30
No. 278	「32年前の善福寺池の魚たち」(山崎 誠).....	31
No. 279	「コップで飼う 救出したヤゴ」(須田 研司).....	32
No. 280	「?不思議な昆虫? ナナフシ」(山崎 誠).....	33
No. 281	「武藏野市の昆虫観察ポイント その他昆虫<その1>」(山崎 誠)....	34
No. 282	「武藏野市の昆虫観察ポイント その他昆虫<その2>」(山崎 誠)...	35
No. 283	「水質汚染度のものさし 水生指標生物 ①」(須田 孫七).....	36
No. 284	「水質汚染度のものさし 水生指標生物 ②」(須田 孫七).....	37
No. 285	「水質汚染度のものさし 水生指標生物 ③」(須田 孫七).....	38
No. 286	「水質汚染度のものさし 水生指標生物 ④」(須田 孫七).....	39
No. 287	「水質汚染度のものさし 水生指標生物 ⑤」(須田 孫七).....	40
No. 288	「ご存じですか 『県のチョウ』 ①」(須田 孫七).....	41
No. 289	「ご存じですか 『県のチョウ』 ②」(須田 孫七).....	42
No. 290	「ご存じですか 『県のチョウ』 ③」(須田 孫七).....	43
No. 291	「ご存じですか 『県のチョウ』 ④」(須田 孫七).....	44
No. 292	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑤」(須田 孫七).....	45
No. 293	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑥」(須田 孫七).....	46
No. 294	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑦」(須田 孫七).....	47
No. 295	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑧」(須田 孫七).....	48
No. 296	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑨」(須田 孫七).....	49
No. 297	「ご存じですか 『県のチョウ』 ⑩」(須田 孫七).....	50
No. 298	「鉛の犠牲 水鳥の嘆き」(井口 豊重).....	51
No. 299	「千川上水樹木しらべ ①」(編集委員).....	52
No. 300	「千川上水樹木しらべ ②」 (けやきコミュニティ協議会千川上水プロジェクト).....	53

>>>

自然のたより

No. 251 2001. 7. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

>>

市内の野鳥 今昔 その3

『モズ・百舌鳥』 モズ科

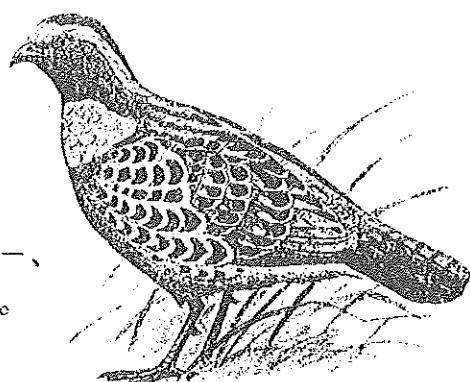
- ・戦後しばらくの間は毎年、梢や電線に止まり高鳴きしていた。
- ・昭和18年頃迄成溪の南、五日市街道から中道まで広大な原っぱが広がり「モズの早にえ」をよくみかけたが原っぱ消滅後は町中で見られた。
- ・昔は拙宅（中町3丁目）近くの植え溜めに毎年雛をつれたモズがきたが昭和28年を最後に見られなくなった。



全長20cm (オス)

『コジュケイ・小美寿鳴鳥』 キジ科

- ・昭和13年頃から「チョットコイ チョットコイ」という声が聞こえるようになった。移入鳥の分布拡大か。
 - ・昭和16～18年頃、成溪学園構内の林では足元から急に飛び立ったり、藪の中を走り抜けたり多産していた。
 - ・その頃、成溪学園の森ではハツタケが採れ、野ウサギの糞も珍しくなかった。
 - ・拙宅周辺の植え溜めにもコジュケイはいたが昭和30年代宅地化にともない生息の場を失い消滅した。
- (編集部補筆／平成10年頃からコジュケイ復活の兆しが見られ、成溪学園構内、市役所隣接のクリーンセンター、千川上水流域等で賑やかな鳴き声が聞けるようになった。



全長27cm

『カッコウ・郭公』 ホトトギス科

- ・戦前戦後を通じて毎年来ていた。拙宅近隣の版画家・織田一磨邸の大木に昭和30年代半ばまで毎年鳴いていた。

『アオジ・青鳴鳥』 ホオジロ科

- ・ホオジロともいう。
- ・戦前はノジコとともに拙宅（市内中町）の庭によく来ていたが、戦後まもなく見なくなくなった。

>>

自然のたり

No. 252 2001. 7. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

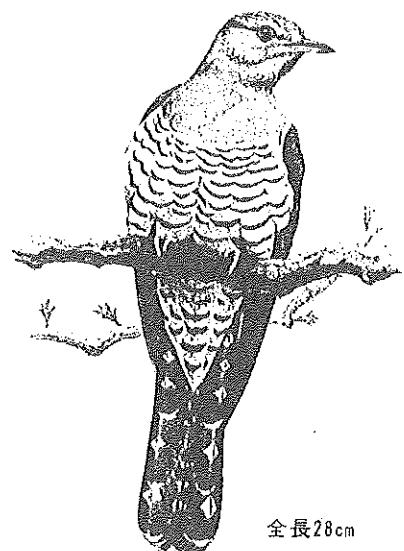
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

>>>

市内の野鳥 今昔 その4

『ホトトギス・杜鹃鳥』 ホトトギス科

- エゴの花が満開、卯の花咲きだす5月半ば武蔵野市の上空をホトトギスが鳴き渡る。市内の鳴き渡りの観察例を上げてみよう。
- 平成6年5月15日、夜半12時、五月雨が晴れ南から白雲が流れ星が輝きだした湿った空を北から南へ
- 平成7年は5月16日、夜10時50分、雨が晴れて東北の空から南の空へ
- 平成8年は5月19日、夜8時45分、曇り空に星一つ二つ、声聞く
- 以前から毎年の様に声を聞いた。声を聞いた2~3日後の新聞に鎌倉や伊豆で「ホトトギスを聞いた」と投書記事が掲載される。



全長28cm

『ツグミ・東鳥』 ヒタキ科

- 毎年冬抽宅（市内中町）の庭に来て、地上でピョンピヨンと餌を拾う。
- たいてい1羽、赤みがかった明るい羽毛の個体。ときどきもう1羽黒っぽいのが来ることもある。



全長24cm

『カワラヒワ・河原鶲鳥』 アトリ科

- 旧名コカワラヒワ
- 以前からいたが数は少なかった。
- 昭和20~40年急に数が増えた。さすが「都会に強い鳥」と思っていたが、このところすっかり減ってしまったようだ。

[イラストは「武蔵野の野鳥」武蔵野市広報課1991より引用]

(岩田 仁)

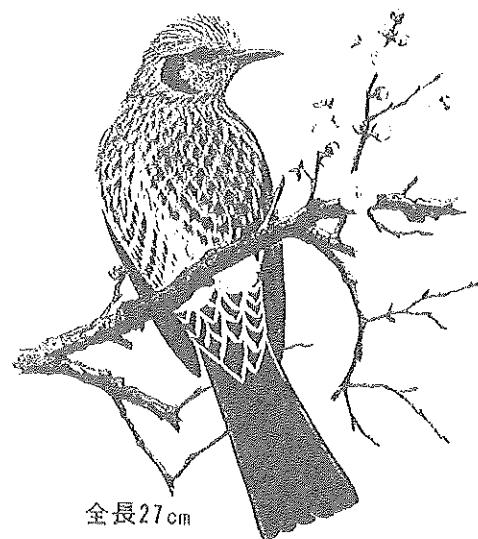
自然のたより

No. 253 2001. 7. 25
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

市内の野鳥 今昔 その5

『ヒヨドリ・鳩鳥』 ヒヨドリ科

- ・戦前も市内に居ることはいたが、オナガ等に比べむしろ少なかった。現在は都會に適応し「都會の鳥」になった。
- ・冬の庭には椿の蜜を求めて飛来。その後はキイチゴ、ウグイスカグラ、ブルーベリー、サンシュ、柿…と甘い物に目がなくホバリングしてついばみくわえてゆく。
- ・「雛を拾った」と聞くと、この鳥が多い。「雛を拾わない」というキャンペーンもあるが、一般市民が落ちてる雛をみれば拾ってしまうのではないか?
- 拾得雛の相談があれば「養い方、放し方」の相談に応じている。たいてい自然にもどるが時に難しい事もある。
- ・保護した雌は雀の卵より小さい茶褐色の網目模様の卵を産む。
- ・保護したヒヨドリはいろいろ餌に好みがある。ある個体は五分の餌、柿、林檎が好物でブドウ、ブルーベリーは大嫌い、ソーメンが大好き。
　ある個体はトマト、スイカ、パン以外は食べない等…総じて果物を好むようだ。
- ・数えたわけではないが、このところヒヨドリは少し減ったのではないか。



『シメ・旨鳥』 アトリ科

- ・毎年2~3羽来て、同じハゼの枝にとまり、2~3日でいなくなる。渡りの途中だろう。



[イラストは「武蔵野の野鳥」武蔵野市広報課1991より引用]

(岩田 仁)

自然のたより

No. 254 2001. 7. 30

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎0422-54-4540

市内の野鳥 今昔 その6

『コゲラ・小啄木鳥』キツツキ科

- 戦前は全く見かけたこともない鳥だった。初めて見たのは昭和50年代、井の頭公園池から神田川流出点近くの桜の木。
- 平成6年、成瀬学園通りの若いケヤキの木にいる。
- 成瀬学園内の苔むしたユリノキの大木には、ショッちゅう来ている。平成6年頃はじめたのか。



全長♂45cm ♀17cm

『セグロセキレイ・背黒青鳥』

セキレイ科

- 水辺はいざ知らず、この鳥を拙宅（市内中町）付近の住宅地の路上で見かけたことはなかった。
- それがこの頃、横河電機の横やら成瀬通りと水道道路（井の頭通り）の間の路上、1月20日には市立木の花小路公園前の道でかなり太った個体がいた。
- 道路上に気軽に何の脈絡もなく現れる。一度来たから又くるというのでもないらしい。よく判らない鳥だ。



全長15cm

『サンコウチョウ・三光鳥』

ヒタキ科

- 戦前、拙宅（市内中町）で声は聞けたが姿を見たことはない。
- 戦前、井の頭公園の松本訓導碑の前あたりで一度だけ見た。

『アオジ・青啄鳥』ホオジロ科

- 戦前はノジコとともに拙宅（市内中町）の庭によく来ていたが、戦後まもなく見なくなった。

[イラストは「武蔵野の野鳥」武蔵野市広報課1991より引用] (岩田 仁)

>>>

自然のたより

No. 255 2001. 8. 1

発行 (財) 武藏野スポーツ振興事業団

野外活動センター

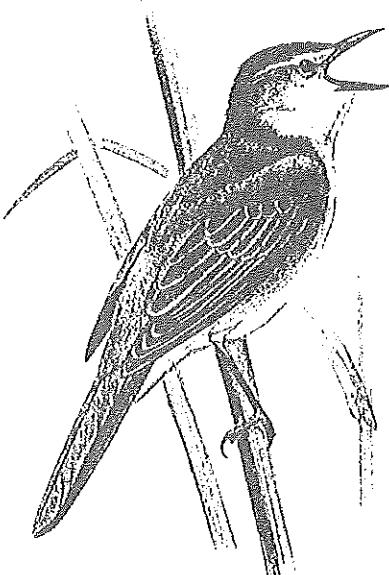
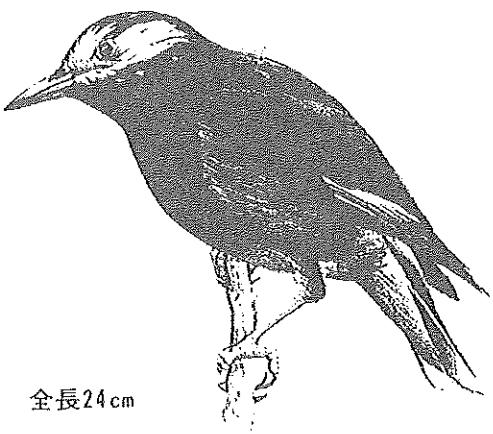
武藏野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

>>>

市内の野鳥 今昔 その7

『ムクドリ・椋鳥』 ムクドリ科

- 以前はこの辺り(市内中町)にあまり来なかった。数羽が庭の柿の実をつっさに来たり、地上の餌を探していた。
- 平成5年頃から繁殖期は盛んに飛び交う様になり、気がつくと戸袋の中や、軒の下向き空気穴から侵入して天井裏に大きな巣を作っていた。
- 一昨年から、家の前の電線に時々100羽近い大群が止まることがある。
- 西五条通りや旧成蹊通り、そして木の花小路公園などで夕方大群を見る。
- この鳥は電線でオシャベリしているうちに、くわえていたエノキの実などをアスファルトとの路面にパチン、パチンと落として愛嬌があるのだが、この辺りには木の実がないのか、まだこの情景にでくわしていない。
- この鳥の卵はウズラより少し小さく空色で美しい。



『オオヨシキリ・大葦切』

ヒタキ科

- 戦前、井の頭公園でよく鳴いていた。七井橋辺のヨシの茂みでよく見かけた。
- 井の頭池から神田川の流れ出し、井の頭公園駅北の沼から三鷹台にかけての湿地帯。ヨシ原は野生生物の楽園だった。
- 神田川の最上流、井の頭池の流れ出しにはタナゴがたくさん見られ、イモリも居た。
- 湿地にはウナギやナマズも多かった。井の頭線開通して以来が野生に満ちていた。

[イラストは「武藏野の野鳥」武藏野市広報課1991より引用]

(岩田 仁)

»»

自然のたより

No. 256 2001. 8. 5

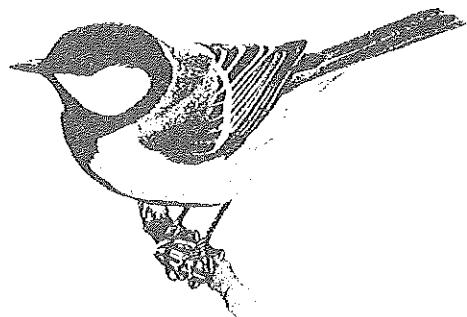
発行（財）武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎0422-54-4540

»»»

市内の野鳥 今昔 その8

『シジュウカラ。四十雀』 シジュウカラ科

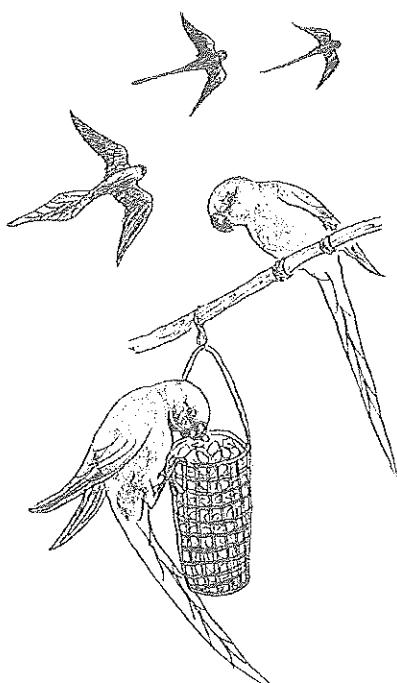
- ・この鳥だけが戦前から現在まであまり変わりなく来てくれる。ヤマガラ、コガラ、エナガが望めない昨今、美しくて野鳥の代表の様なこの鳥の健在が唯一の救いといえよう。
- ・巣箱によく入るし、拙宅（市内中町）の庭には毎年、何度か7~8羽の雛を連れてやって来る。
- ・雛は好奇心が盛んで、何でも叩いて見ている。
- ・東京空襲が始まって間もない昭和20年の1月頃、中島飛行機武蔵野製作所を襲ったB29の「それ弾」500爆弾が成蹊学園の西側木の花小路公園より少し成蹊よりだったかの枯れ草の原っぱにクレーター状の大穴をあけた。爆発によってはねあげられた軟らかい土の上に1羽の四十雀がふわりと伏せて死んでいたいたのを思い出す。戦火は野鳥の命まで奪った。犠牲になった野鳥に複雑な気持ちが残った。
- 今は巨木になって点在する赤松の背丈は当時2桺位だった。



全長14cm

『ワカケホンセイインコ。輪掛本青鸚哥』

インコ科



- ・昭和65年頃が最盛期か。拙宅（市内中町）の庭にヒマワリの種を置いていた頃は、20羽くらいの群れで日に3~4回やってきた。
- ・群れの中に一段と大柄で顔のまわりの赤や青が派手な別種が混じっていた。
- ・ここ3~4年はほとんど見かけない。ごく稀に声をきいたり1~2羽見かける程度。
- ・1月13日本日の花小路公園前の桜の芽をついぱむ2羽を見たが、カラスに追い払われた。

[イラストは「武蔵野の野鳥」市広報課1991／「東久留米の野鳥」東久留米市教育委員会1994を引用]

(岩田 仁)

自然のたより

No. 257 2001. 8. 10

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

市内の昆虫 何種類いるの?

昨年度武蔵野市内の生物が総合的に調査された。その結果、哺乳類・魚類等を除き多くの動物の現状が把握された。

調査に先立ち基礎資料として「戦前1945年以前」「戦後1946~1956年」「1990年以降」と三期にわけて比較した。その結果か戦前1131種いた昆虫が半減している。特に水質の悪化によりトンボ類は激減、草原の喪失によりバッタ類が減少、雑木林の甲虫類も衰退した。各種類の生息状況は「武蔵野市生物生息状況調査報告書」(2001年)の63~97頁に山崎誠氏が122~185頁に須田孫七が記載しているので参照されたい。(調査地域は三鷹市域の井の頭公園、多摩川上水も含まれている)

武蔵野市産昆虫・目別種類数

目名	戦前科数	戦後科数	戦前種数	戦後種数	現在種数
カゲロウ目	0	1	0	1	0
トンボ目	9	8	39	23	17
カワゲラ目	1	0	1	0	0
ゴキブリ目	2	2	4	3	3
カマキリ目	1	1	5	4	3
シロアリ目	0	1	0	1	0
バッタ目	13	12	51	31	22
ナナフシ目	1	1	3	1	1
ハサミムシ目	2	3	2	5	2
カメムシ目・セミ亜目	16	21	35	44	39
カメムシ目・カメムシ亜目	16	20	42	72	53
アミメカゲロウ目	8	5	13	8	6
コウチュウ目	53	46	424	296	255
ハチ目	19	12	80	57	39
シリアゲムシ目	1	0	2	0	0
ノミ目	0	1	0	1	1
ハエ目	23	17	67	34	15
トビケラ目	4	2	7	2	1
チョウ目・ガ類	32	18	287	102	71
チョウ目・チョウ類	9	8	69	53	42
合計	210科	179科	1131種	738種	570種

*生存種数率

科数：戦前(210科)と戦後(179科)を比較すると生存種数率は 85.23%

種数：戦前(1131種)と戦後(738種)を比較すると生存種数率は 65.25%

種数：戦前(1131種)と現在(570種)を比較すると生存種数率は 50.39%

種数：戦後(738種)と現在(570種)を比較すると生存種数率は 77.23%

(須田孫七)

自然のたより

No. 258 2001. 8. 15

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野 外 活 動 セ ン タ ー

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

観音崎・たら浜の生き物 ①

平成13年6月24日に武蔵野自然クラブのフィールドワークで、三浦半島の観音崎自然博物館に隣接する、たら浜の磯で海浜生物の観察を行った。その際に観察できた動植物を2回にわたり紹介する。なお、今回観察できなかったが、平成9年～12年の毎年6月にたら浜で観察した種類も加えた。

<無脊椎動物>

I. 海綿動物

- クロイソカイメン (黒い色をした海綿)
- ダイダイソカイメン (オレンジ色をした海綿)
- ナミイソカイメン (普通に見られる黄色い海綿)

II. 刺胞動物

花虫類 (イソギンチャクの仲間)

- ヨロイソギンチャク
- タテジマイソギンチャク
- ミドリイソギンチャク
- スナイソギンチャク

錐虫類 (クラゲの仲間)

- ミズクラゲ

ヒドロ虫類

- シロガヤ (刺胞毒が強いため、触ると危険)

III. 扁形動物 (ヒラムシ類)

- ヒラムシの一種

IV. 环形動物

多毛類 (ゴカイ・イソメ・ケヤリムシの仲間)

- ウズマキゴカイ (海草のアマモの葉に多数ついている)

- ミズヒキゴカイ

- ケヤリムシ

V. 软体動物

多板類 (ヒザラガイの仲間-8枚の貝殻をもつてゐる)

- ヒザラガイ

- ケハグヒザラガイ

- ヒメケハダヒザラガイ

双殻類 (二枚貝の仲間)

- マガキ

- ケガキ

- ホタテガイ (貝殻)

アサリ

ウチムラサキガイ (貝殻)

アラナミマガシワ

アコヤガイ

腹足類 (巻貝・ウミウシの仲間)

キクノハナガイ

カサガイの一種

オトメガサガイ

マツバガイ

ウノアシガイ

イボニシ

クマノコガイ

レイシガイ

オオヘビガイ

アオウミウシ

シロウミウシ

マダラウミウシ

コモンウミウシ

サガミミノウミウシ

クロシタナシウミウシ

アメフラン (卵塊もある)

頭足類 (イカ・タコの仲間)

ミミイカ (体長約3cm)

VI. 星口動物 (ホシムシ類)

ホシムシの一種



ヤツデヒトデ
を見つけて喜ぶクラブ員

(小川賛一)

自然のたより

No. 259 2001. 8. 20

発行 (財) 武藏野スポーツ振興事業団
里子 外活動センター
武藏野市吉祥寺北町5-11-20 ☎0422-54-4540

銀音崎・たら浜の生き物 ②

平成13年6月24日に武藏野自然クラブのフィールドワークで、三浦半島の観音崎自然博物館に隣接する、たら浜の磯で海浜生物の観察を行った。その際に観察できた動植物について前回に引き続き紹介する。なお、平成9年～12年の毎年6月にたら浜で観察した種類も加えた。

<無脊椎動物>

VII. 節足動物

小型甲殻類 (ワレカラ・ヘラムシ・フナムシの仲間)
ワレカラの一種 (体長約1~2cmでカマキリ型の
ハサミを持つ小型甲殻類)

イソヘラムシ (岩場の海藻の間や岩の下にいる)
フナムシ

ブジツボ類

クロブジツボ イワブジツボ
ヤドカリ類
ホンヤドカリ ケアシホンヤドカリ

カニ類

ヨツハモガニ イシガニ
イワガニ イソガニ
ヒライソガニ オウギガニ
ショウジンガニ ワタリガニの一種
キンセンガニ イッカクモガニ
コブシガニ

VIII. 藻類 (ウニ・ヒトデの仲間)

ヒトデ類

ヤツデヒトデ イトマキヒトデ
ヒメヒトデ

ウニ類

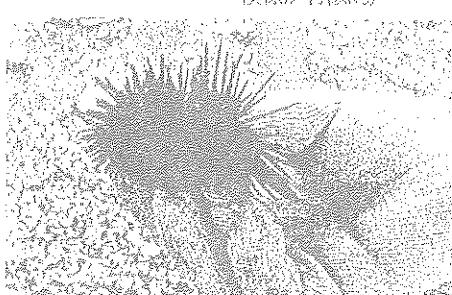
バフンウニ (食用になる)
ムラサキウニ (食用になる)

ナマコ類

マナマコ (黒褐色の個体、食用になる)

IX. 原索動物 (ホヤの仲間)

マンジュウボヤ (赤褐色で直径5~10cmの球塊)
イタボヤ (一見、海绵状で赤褐色のぶつぶつした
模様が特徴的)



刺さると痛い多い
トゲをもつ大きな
ムラサキウニ

<脊椎動物>

I. 魚類

ヘビギンボ クロギンボ
ナベカ . アゴハゼ
アサハゼ ドロメ
ハオコゼ (背びれの毒棘に刺されると危険)
クサフグ (皮膚は強毒、肝臓と卵嚢は猛毒、6月
の大潮の際にたら浜に大群で押し寄
せて、砂地に産卵する)
イグテンカジカ ウミタナゴ
メバル (幼魚)

<藻類>

I. 緑藻類

アナオサ ミル
フサイワヅタ (海藻サラダとして食用されるウミ
ブドウとかグリーン・キャビアと
呼ばれる仲間)

II. 褐藻類

フクロノリ アラメ
ヒジキ ホンダワラ
オオノヤモク
シリヤハズ (海中で光を反射して、青白い螢光を
発する)

III. 紅藻類

マクサ (別名テングサ、寒天の原料になる)
スギノリ (海中で光を反射して、青白い螢光を発
する)

ハリガネ ベニスナゴ
ユカリ
ヒライボ (炭酸カルシウム (石灰) が沈着した石
灰藻のサンゴモの仲間で、生きている
時は紫色をしているが、死ぬと灰白色
になる)

<植物>

I. 種子植物 (海草の仲間)

アマモ (花が咲き、実をつける、リュウグウノオ
トヒメノモトエイノキリハズシという別
名は植物名では最も長い)

(小川賢一)

自然のたより

No. 260 2001. 9. 5

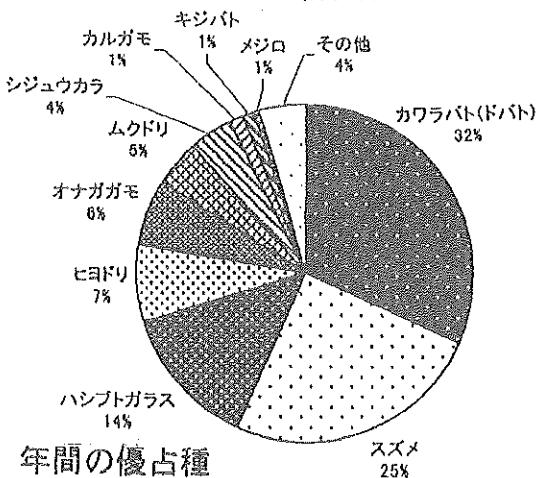
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の野鳥(1) 平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書から

武蔵野市の野鳥は37種、外来種3種

No.	目	科	種名
1	カツブリ目	カツブリ科	カツブリ
2	ペリカン目	ウ科	カワウ
3	コウタリ目	サギ科	ヨイサギ
4			コサギ
5	カモ目	カモ科	オシドリ
6			マガモ
7			カルガモ
8			オナガモモ
9			ハシビロガモ
10			ホンハジロ
11			キンクロハジロ
12	チドリ目	カモメ科	ユリカモメ
13			コアジサシ
14	ハト目	ハト科	キジバト
15	フッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ
16	キツツキ目	キツツキ科	アオグラ
17			ヨゲラ
18	スズメ目	ツバメ科	ツバメ
19		セキレイ科	キセキレイ
20			ハクセキレイ
21			セグロセキレイ
22		ヒヨドリ科	ヒヨドリ
23		モズ科	モズ
24		ツグミ科	ジョウビタキ
25			シロハラ
26			ツグミ
27		ウグイス科	ウグイス
28		シジュウカラ科	シジュウカラ
29		メジロ科	メジロ
30		ホオジロ科	オオジ
31		アトリ科	カワラヒワ
32			シメ
33		ハタオリドリ科	スズメ
34		ムクドリ科	ムクドリ
35		カラス科	オナガ
36			ハシブトガラス
37			ハシブトガラス
			不明種
外	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)
異種	インコ目	インコ科	セキセイインコ ワカゲホンセイインコ
			総個体数

注1 出現鳥類の分類は、「日本鳥類目録 改訂第6版」(日本鳥学会2000)による。



●武蔵野市の出現種類種37種

平成12年4月から平成12年12月の期間と平成12年2月のロードサイドセンサス法による月1回の調査結果から、9目21科37種が確認された。外来種は、カワラバト(ドバト)等の3種。

水辺の調査地と住宅地等の調査地では種類構成に著しい違いがみられた。確認された37種類の46%に及ぶ17種が、池、河川、水辺に生息するカツブリ科、ウ科、サギ科、カモ科、カモメ科、カワセミ科、セキレイ科等の鳥類であった。それらの生息場所は、井の頭公園の池、玉川上水、千川上水という武蔵野市内および周辺地域の限られた地域に主に生息していた。

●杉並区の出現種類数38種

武蔵野市の東部に隣接する杉並区と比較すると、杉並区の出現種類数が38種(外来種を除く)であり、武蔵野市と種類構成も類似し、善福寺公園の池や善福寺川などの水辺に生息する種類の生息分布もほぼ同様である。(杉並区、1998)

●2種類の鳥類相

武蔵野台地に位置する武蔵野市では、井の頭公園の池や玉川上水等の河川の限られた地域における水鳥等を加えた比較的豊かな鳥類相と、住宅地の種類の少ない鳥類相との2種類があることがわかった。

●優占種は3種(カワラバト、スズメ、ハシブトガラス)で7割を占める

10回の調査で観察された総個体数の総合計から判断すると、優占種は、カワラバト(ドバト)31.7%、スズメ24.9%、ハシブトガラス13.6%、ヒヨドリ7.4%、オナガガモ6.3%、ムクドリ4.5%、シジュウカラ4.1%、カルガモ1.4%、キジバト1.2%であった。

武蔵野市全体でみると、出会う野鳥の3羽に1羽はカワラバト(ドバト)と言える。

都会の環境に適応している増加しているカワラバト(ドバト)、スズメ、ハシブトガラスの3種類で、全体の70.2%を占めていた。

○調査方法

ロードサイドセンサス法で実施。毎月1回、調査員1名が、長さ約1kmの調査コースを時速約2kmで歩行し、観察幅は片側2.5m両側で約50mの範囲とした。記録対象は種類と個体数。鳥類種の確認は姿と鳴き声で行い8倍程度の双眼鏡を補助的に利用。

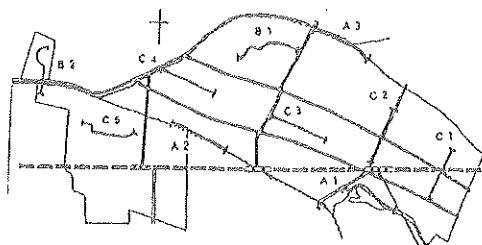
(井口豊重)

自然のたより

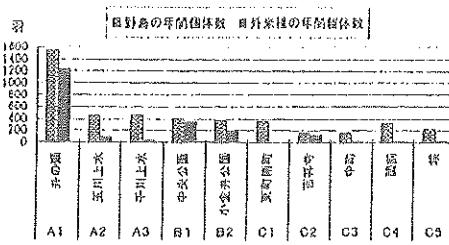
No. 261 2001. 9. 20
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の野鳥(2) 平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書から

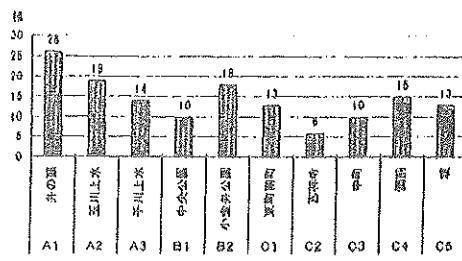
武蔵野市の野鳥 地域別の状況



調査コース



調査コース別の総個体数



調査コース別の種類数

① 調査コース別の種類数と総個体数の比較

調査コース別の野鳥とカワラバト(ドバト)等の外来種の総個体数を比較すると、A1 井の頭コースが他の調査コースの4倍以上の個体数となっている。これは、秋冬期に飛来するカモ類、通年生息するハシブトガラス、カワラバトが多いためである。

野鳥の個体数では、C2 吉祥寺、C3 中町、C5 境コースが約 200 羽で少ない。A1 を除く他の調査コースは約 400 羽程度でほぼ同じであった。

カワラバト等の外来種個体数は、A1 井の頭の約 1200 羽、B1 中央公園に約 400 羽、B2 小金井公園に約 200 羽であった。これらの地域は、カワラバトに餌をやる人々がおり、カワラバトもこれを目当てに滞在していることが考えられた。

② A 水辺の調査地

年間の出現種類数は、A1 井の頭公園 27 種、A2 玉川上水 20 種、A3 千川上水 15 種。A1 井の頭公園の種類数が多いのは、他の調査コースにはない池があり、特に秋冬期にカモ類が越冬のために飛来することによる。A2 玉川上水は、流水幅も約 1~4 m、やぶのある緑地の幅も約 10 m あるためアオジ、ウグイス等も観察されて出現種類数も 19 種と井の頭公園に次いで多い。A3 千川上水は、ほぼコンクリート護岸で流水幅も約 1 m と狭く、緑地幅も狭いために出現種類数が 15 種と少なかった。

③ B 公園を含む調査地

年間の出現種類数は、B1 中央公園 11 種、B2 小金井公園 19 種であった。B1 中央公園は、芝生の広場と周辺の下草のほとんどない林であるために、生息できる種類数も限られ、ほぼ住宅地並の種類が生息していた。B2 小金井公園の調査コースに池は含まれないが、樹林も多く多様な環境を反映しているために種類数が多い。

④ C 商店街、住宅地の調査地

最も出現種類数が少ないので、C2 吉祥寺の 7 種類である。このコースは吉祥寺駅から武蔵野市立第四小学校に向かう吉祥寺通りであり、道路の両側はマンションが建ち並んでいる。そのため出現する種類で個体数が多いのはカワラバト、ハシブトガラスである。武蔵野八幡宮、蓮乗寺の樹林があるためにヒヨドリ、スズメ、シジュウカラ、ムクドリ、オナガが観察されて 7 種類となっている。寺社林は今後も保存されると思われるが、これらの緑地が無くなったら場合は、出現する種類数は、カワラバト、ハシブトガラスを中心に数種に減少するであろう。

住宅地の調査コースにも違いが見られた。C3 中町コースは、工場もあるが住宅が建ち並び、緑地が少ないので出現種類数が 11 種類と少なかった。

C1 東町南町コースは、住宅地でありながら庭の樹木や学校の樹木があり種類数が 14 種であった。

C5 境コースも C1 と同様の住宅地の環境で種類数も 14 種と同じだった。

C4 関前コースは住宅地でありながら、生産緑地に指定されている畑や、関前公園のトンボ池を含むために、カルガモ、冬期にジョウビタキなども観察され種類数が 16 種と多かった。

(井口豊重)

自然のたより

No. 262 2001. 10. 5

発行 (財) 武藏野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武藏野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武藏野市の野鳥(3) 平成12年度 武藏野市生物生息状況調査報告書から

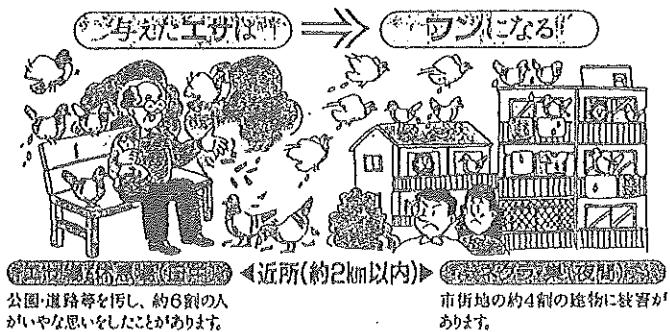
ハトに餌やらないで！？

●カワラバトは、人間から餌をもらえる場所に集中

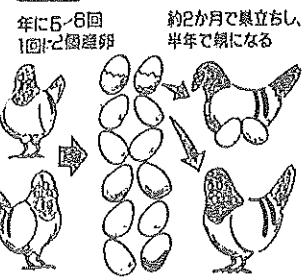
A1 井の頭公園、B1 中央公園、C1 吉祥寺コースは、特にカワラバト（ドバト）が多い。年間総個体数に占めるカワラバトなどの外来種の割合が、約 45 %を占めている。これは、出会う鳥の2羽中1羽はカワラバトと言うことになり、

カワラバトなど外来種の割合が小さい地域は、C1 東町南町 0.6 %、C3 関前 1.2%となっている。C3 中町、C5 境、千川上水は約 7 %、玉川上水は「野鳥の森」や公園が隣接し、餌をもらえる環境があるためか、19%を占めていた。千川上水の橋には看板がついており「ハトに餌をやらないで下さい。洗濯物が汚れて困っています」という内容であった。そのため、バトへの餌やりは自肅されているようだ。カワラバトの分布は、人間から餌をもらえる場所に集中していた。

生活環境被害



繁殖能力も高い



健康被害のおそれ

人間にうつる病気・寄生虫を
持っていることがあります。

産業被害

工場・穀物倉庫での製品の
粉汚染、農作物の食害等

広島市はと対策検討委員会(1999)より転載

●カワラバトを8割減らした効果的な対策とは

広島市はと対策検討委員会(1999)によると、広島市平和記念公園および市内で以前から「平和のシンボル」として大切にされてきたカワラバト（ドバト）が増えすぎ、糞害が問題となっていた。そこで、平成6年から「ハトにエサを与えないで」というチラシの配布、ポスター掲示、学校などで給餌自肅等のさまざまな啓発活動を行った。その結果、広島市内全体のカワラバト個体数は、平成4年度 7673羽から平成10年度 1710羽に減少した。これは6年間でカワラバトが約8割減少したことになる。

●武藏野市でも「ハト、カラスに餌をやらないで」

ドバト対策では、給餌の自肅が効果的である。武藏野市はすでに公園でカラス対策の給餌自肅の呼びかけを行っているが、ドバトを含めて糞害がひどくなる前に、給餌自肅の啓発活動を推進したい。カラスについても給餌により人間に脅威を感じなくなった個体が、餌を求めて力の弱い幼児や子供を攻撃する可能性が指摘されており、人間とカラスの距離を保つためにカラスへの給餌も自肅すべきと考えられている。
(井口豊重)

○参考資料 武藏野市環境部環境対策課、2001、「平成12年度武藏野市生物生息状況調査報告書」
広島市はと対策検討委員会、1999、「広島市はと対策実施報告書」

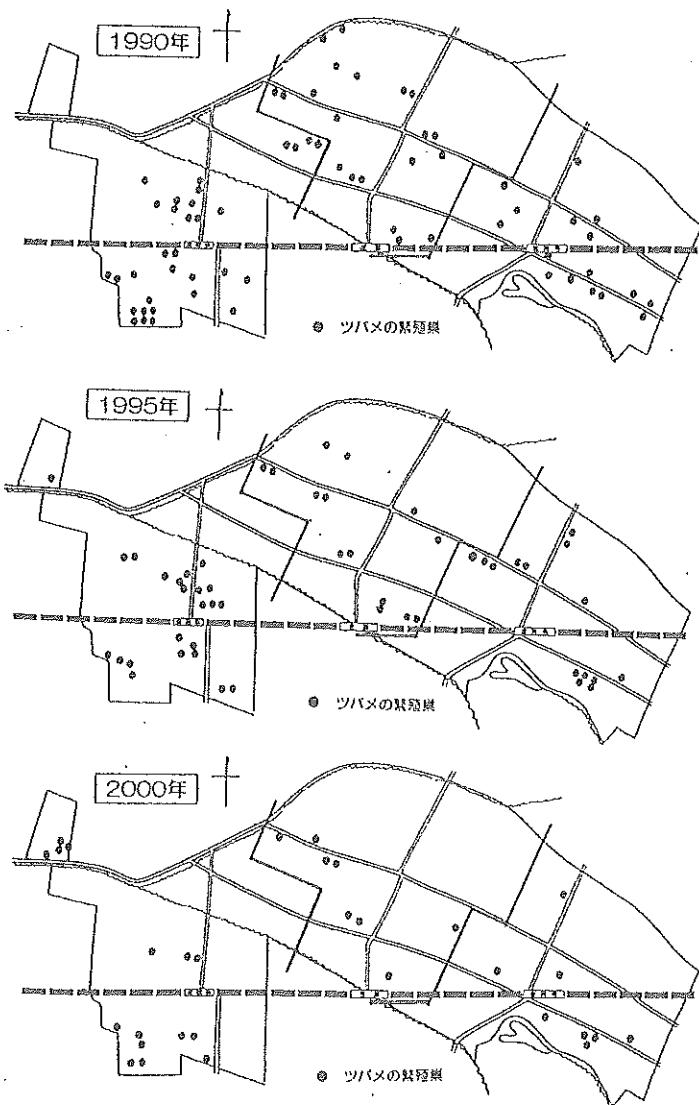
自然のたより

No. 263 2001. 10. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の野鳥(4) 平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書から

ツバメ、10年で半数に減少



ツバメの繁殖巣数は、1990年22個から2000年8個に10年間で64%減少していた。中部地域で、2000年に繁殖していた場所は、病院の入口、コンビニ店軒下、事務所車庫内など人通りが多い場所か奥まった場所で、カラスが入りにくい場所での繁殖が残っている。ツバメの繁殖巣数は、毎年中部と東部地域はほぼ同じあり、武蔵野市全体の約25%を占めている。

●西部地域 JR 武蔵境駅の南側の境南町、北側の境、桜堤地区。西部地域は、ツバメの繁殖巣数が多く、武蔵野市全体の約半数がある。これは、畑や玉川上水など緑地も多いので餌となる飛翔昆虫が多く、巣作りしやすい建物があるためと考えられる。しかし、カラスによる捕食もあり、ツバメの繁殖巣数は、1990年30個から2000年15個に50%減少していた。

○謝辞 ツバメ繁殖調査では、地域の多数の方々に観察の情報を教えていただきました。1990～1998年度の調査は、武蔵野市立第六中学校自然探求部の生徒の皆さんのが調査されました。2000年は「生き物探検隊」の皆様のご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

(井口豊重)

○参考資料 武蔵野市環境部環境対策課、2001、「平成12年度武蔵野市生物生息状況調査報告書」

●ツバメ、見かけなくなりました

ツバメ (*Hirundo rustica*) は、越冬地の東南アジアから繁殖のために日本に飛来し、武蔵野市では、4月から8月まで観察される夏鳥です。ツバメは、商店の軒下や住宅の車庫などで繁殖し、人々にも大切に扱われていますが、都市化とともに繁殖巣数が減少している。

武蔵野市全域のツバメの繁殖巣数は、平成2(1990)年の68個から、平成7(1995)年の51個を経て、平成12(2000)年は31個に減少していた。平成2(1990)年と平成12(2000)年を比較すると、ツバメの繁殖巣数が10年で約半数に減少していた。

●東部地域

JR 吉祥寺駅周辺の東部地域は、1990年は吉祥寺駅南口近くの商店でツバメが繁殖するなど、商店街のにぎやかな場所でも繁殖していた。2000年は、駅から離れたマンションの車庫、タクシー営業所の車庫など奥まった場所で主に繁殖していた。東部地域は、ツバメの繁殖巣数が西部地域に比べて約半数と少なく、武蔵野市全体の約25%。

自然環境では、井の頭公園の池と緑地があり、ツバメの餌となる飛翔昆虫も多いと考えられるが、井の頭自然文化園にはハシブトガラスのねぐら(300～550羽、1997.12～1998.6)があるためハシブトガラスが多く、ツバメの繁殖巣はカラスによる捕食被害がある。そのためツバメが繁殖しにくい状況となっている。

●中部地域

JR 三鷹駅北側の中部地域の繁殖巣数は、1990年22個から2000年8個に10年間で64%減少していた。中部地域で、2000年に繁殖していた場所は、病院の入口、コンビニ店軒下、事務所車庫内など人通りが多い場所か奥まった場所で、カラスが入りにくい場所での繁殖が残っている。ツバメの繁殖巣数は、毎年中部と東部地域はほぼ同じあり、武蔵野市全体の約25%を占めている。

●西側地域 JR 武蔵境駅の南側の境南町、北側の境、桜堤地区。西側地域は、ツバメの繁殖巣数が多く、武蔵野市全体の約半数がある。これは、畑や玉川上水など緑地も多いので餌となる飛翔昆虫が多く、巣作りしやすい建物があるためと考えられる。しかし、カラスによる捕食もあり、ツバメの繁殖巣数は、1990年30個から2000年15個に50%減少していた。

自然のたより

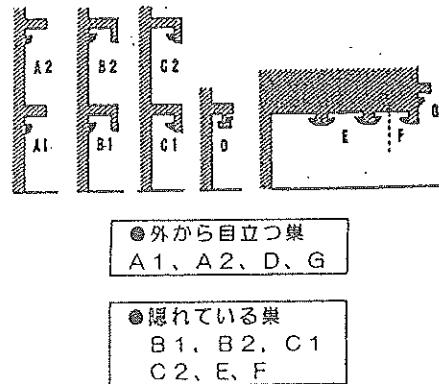
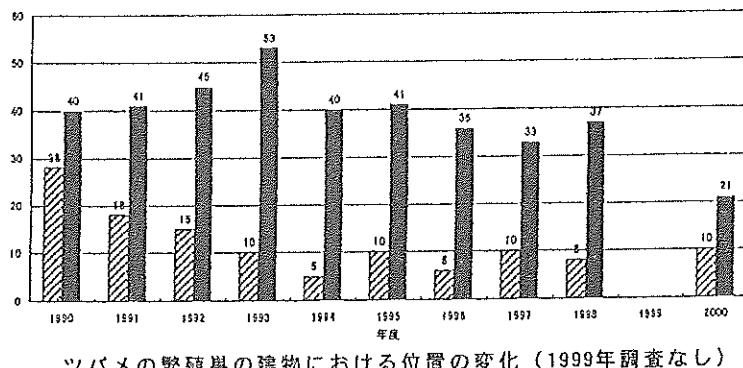
No. 264 2001. 11. 5
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の野鳥(5) 平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書から

ツバメは隠れて巣作り、原因は?

図

自立つ巣と隠れた巣



●隠れて巣作り、武蔵野市のツバメ

聞き取り調査によると、武蔵野市でもハシブトガラスが、ツバメの巣を壊して卵や雛を捕食することがわかった。カラスによる捕食は、外から目立つ位置のツバメの巣が多かったので、ツバメは建物のどの位置に巣作って繁殖したか、分類して変動を調べた。

武蔵野市全体では、1990年のツバメの繁殖巣は「目立つ巣」40個(59%)、「隠れた巣」28個(41%)で「目立つ巣」が多かった。3年後の1993年は「目立つ巣」10個(16%)に減少し、「隠れた巣」53個(84%)増加していた。これは、1991年頃からカラスによるツバメのヒナの捕食被害が観察されるようになり、「目立つ巣」が被害に遭いやすいため、ツバメは隠れた場所で巣作りするようになったためと考えた。

この傾向は、1998年まで続いたが、2000年度は、ツバメの繁殖巣で「目立つ巣」10個(32%)、「隠れた巣」21個(68%)で、「隠れた巣」の繁殖が1998年度に比べて43%も減少している。これは、聞き取り調査によると、車庫内など隠れた場所でもカラスの捕食被害を受けていることから、今までカラスが入りにくかった場所にもカラスが大胆に行動して入るようになり、ツバメの繁殖が減少していると考えられた。

●東京区部でツバメの減少 東京都環境保全局(1998)によると、ツバメの繁殖分布は、1970年代の調査結果と1990年代を比較すると「河川沿いをのぞき区部では(ツバメの繁殖)記録が減少したが、郊外はほとんど変化がなく、住宅地の拡大とともに西部への分布が広がっている」。繁殖分布図から、武蔵野市は都心部と同様にツバメの繁殖が減少している。

●カラス増加が生態系のバランスを崩す

東京都環境保全局(1998)によると、「ハシブトガラスは、1970年代には東京都の低地に少なく、台地から丘陵地に多く分布が広がり、(繁殖)ランク2以上の総メッシュ数は346だったが、1990年代には低地に分布が広がり台地と丘陵地でも繁殖メッシュが増加して、ほぼ2倍の784に増加し、ほぼ東京都全域で繁殖がみられるようになった。ハシブトガラスは、樹木だけでなく鉄塔、ビルなどでも営巣し、生ごみなども食物にできる雑食性のため、都市環境に順応して分布が広がったと思われる。カラス類は、繁殖期には他種の卵やヒナを襲う可能性があるので、数が多くなりすぎると生態系のバランスを崩す」と指摘されている。

●カラス対策で人もツバメも住み良い街作り

東京のカラスの増加原因は、人間のゴミの出し方にある。カラス除けネットを掛けずにカラスが食べやすい状態でのゴミ出しが、カラスへの餌付けになっている。また、最近は、井の頭公園などでもカラスに積極的に餌付けをしている人を見かける。このようなカラスへの餌付けは人間とカラスの距離を狭めて、人間への加害を招く可能性が高いので自粛したい。カラスの増加を防ぐゴミ対策は、一部の地域だけが実施してもその効果が低いので、武蔵野市のみならず近隣区市と協力して生ごみの総量規制、丈夫なカラス除けネットの貸し出し、ネットを効果的に活用できる人々のネットワークなどが必要と考える。

カラス増加防止の対策は、人間にとて住みやすい街作りにもつながり、ツバメなど都会でも繁殖する野鳥の生態系維持にも役立つと考える。

さらに、ツバメが繁殖できる街並みは、面倒な糞の掃除にもかかわらずツバメの子育てを温かく見守れる心やさしい人々が住む地域であり、餌の飛翔昆虫が採取できる自然環境も近くにある。このことからツバメの繁殖は、優れた生活環境のパロメータと考えることもできそうである。

(井口豈重)

○ 参考資料 武蔵野市環境部、2001、「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」
 東京都環境保全局、1998、東京都鳥類繁殖状況調査報告書(平成5~9年度)

>>>>>>>>>自然のたより

自然のたより

No. 265 2001. 11. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎0422-54-4540

>>>>>>>>>

歳時記の双翅類昆虫—虻—

秋も深まり、紅葉前線も平地に降りてくる時期になりました。この時期になると、街中の川の周辺で蚊柱があちこちに立っているのに気づいたでしょうか。この蚊柱、実はカの群れているものではなくて、ユスリカの群れているものです。恐らく、都会の汚れた川でも幼虫がよく生息できるセスジユスリカという種類です。ところで秋になると、カは同じ種類でも夏のものに比べて大きくなり、刺されると強い痛みを感じことがあります。また、小春日和にヤツデやキクの花を訪れているハナアブやハエをよく見かけるようになります。ユスリカ、カ、ハナアブ、ハエなどは翅が2枚しかない昆虫の仲間なので、双翅類といいます。実は、この虫たちは四季を表わす季語として和歌や俳句でよく詠まれています。そこで歳時記を通して、これらの虫たちがどのように描かれているかを6回シリーズで観いて見ることにします。まず、アブから見ていきましょう。

アブは「^{あぶ}」のほか、「姫虻」「花虻」「青目虻」「黄虻」「^{しおき}塩屋虻」「^{こうか}後架虻」「牛虻」「馬虻」などが季語で詠まれています。しかし、俳句では人畜を襲って吸血するアブを総じて「牛虻」、訪花して蜜を吸ったり花粉を食べるアブを「花虻」として区別しています。実際にアブをよく目にする季節は夏ですが、歳時記では花蜜を求めて飛び回っている姿が目立つことから、春(2月3日頃～5月5日頃まで)の季語になっています。春の日中、アブの羽ばたく羽音を聞いていると、のんびりした気分になったり、眠気を誘うようです。

花にあそぶ虻なくらひそ友雀
草の葉に虻の空死したりけり

芭蕉
一茶

虻落ちてもがけば丁字香るなり
馬虻の氷室口までつき来り
アネモネの花くつがへし居るは虻
静かさや花の昼間に虻の声
草枕虻を押へて寝覚めけり
夕日沖へ海女の乳房に虻喰り
ぶんぶんとむかしの音を春の虻

高濱虚子
臼田亜浪
高野素十
麦水
路通
沢木欣一
平井照敏

春から夏に多く見られていたアブも寒くなるにつれて、活動の盛りを過ぎます。晚秋から初冬の季節、咲いている花も少なくなった晴れた日に、ヤツデの花にハナアブの姿が見られます。

歳時記では季節は冬。そんな冬の季語に「冬の虻」「^{いのちか}凍虻」としてアブが登場します。

たよりなき眼に冬の虻見いでけり
冬の虻御苑の晴に乘じけり

川上梨屋
牧野寥々

参考文献：新編 俳句歳時記<冬> 野沢節子 講談社 昭和56年

カラー図説日本大歳時記座右版 水原秋櫻子・加藤敬輔・山本健吉(監修) 講談社 昭和58年

新訂 現代俳句歳時記 石田波郷・志摩芳次郎(編) 主婦と生活社 昭和63年

鳥獣虫魚歳時記(春・夏の巻) 朝日新聞社(編) 朝日新聞社 平成12年 (小川賢一)

自然のたより

No. 266 2001. 12. 5
発行（財）武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

歳時記の双翅類昆虫—蚊①—

カは夏を代表する昆虫で、こちらが好まなくとも、カの方から血を吸いに寄ってくる迷惑千万な厄介物です。蚊を詠んだ作品はとても多く、古くから日常生活で蚊に悩まされていたことがよくわかります。「蚊」「藪蚊」「縞蚊」「赤家蚊」「赤斑蚊」「薄蚊」「翅斑蚊」などが夏（5月5日頃～8月7日頃まで）の季語として詠まれています。

叩かれて昼の蚊を吐く木魚かな
山の井を覗けば答ふ藪蚊かな
鈍重な女の愛や蚊を連れて
山の蚊の縞あきらかや 漱
ちくりと蚊胸の落書消されたり

夏目漱石
桃隣
西東三鬼
芝不器男
田中治生子

また、「蚊の声」「鳴く蚊」「蚊の唸り」といった羽音が気になつたり、あるいは羽音を鋭い感覚で詠んでいるものもあります。

夏の夜はまくらをわたる蚊の声のわづかにだにもいこそ寝られね
蚊の声す忍冬の花の散るたびに
夕かけて小雨こぼるる竹村の蚊の細ごゑに夏をしるかな
蚊の声のひそかなるとき悔いにけり
類の蚊の鳴く音をかへて飛びにけり
本曾の蚊の声のありかの無明かな

藤原良経
燕村
加納諸平
中村草田男
宮部寸七翁
青木重行

カに刺されて血を吸われ、痒い思いをしたくありません。また、以前は日本国内でもマラリアやフィラリア症を媒介していたし、今でも犬のフィラリア症を媒介する厄介物、嫌われ者です。そこで、「蚊帳」「蚊火」「蚊取香水」「蚊除香水」「蚊取線香」「蚊遣」「蚊遣火」「蚊遣草」「蚊を打つ」「蚊を焼く」「蚊を追う」といった蚊避けや退治法の季語も多くあります。

蚊を焼くや寝似が闇の私事
蚊を打つや枕にしたる本のかさ
蚊を焼くや紙燭にうつる妹が顔
蚊を焼いて蠟燭臭き夜明かな
蚊を打つて類やはらかく癒えしかな

其角
其角
一茶
角田竹冷
石田波郷
(次回につづく)

参考文献：新編俳句歳時記<夏> 草間時彦 講談社 昭和57年
カラー図説日本大歳時記座右版 水原秋櫻子・加藤敬郎・山本健吉（監修） 講談社 昭和58年
大歳時記 第一巻 句歌春夏 山本健吉（監修） 集英社 平成1年
評解 名句辞典 麻生穀次・小高敏郎 創拓社 平成2年
鳥獣虫魚歳時記（春・夏の巻） 朝日新聞社（編） 朝日新聞社 平成12年 (小川賢一)

>>>

自然のたより

No. 267 2001. 12. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

>>>

歳時記の双翅類昆虫—蚊②—

力がつくる「蚊柱」は身近に見られる自然の風物で、目立つこともあり、数多く詠まれています。その描写は鋭く、正確で、蚊柱の生態や蚊の行動をよく観察しています。

草深きしづの伏屋の蚊ばしらにいとふ煙を立てそふるかな

藤原定家

蚊柱に夢の浮橋かかるなり

其角

一つ二つから蚊柱となりにけり

一茶

蚊ばしらの際ほのぼのと三日の月

牧童

蚊ばしらや眉のほとりの空あかり

飯田蛇笏

蚊柱や吹き渡はれて余所にあり

阿波野青畝

蚊柱を吹いて曲げたり木曾の風

宇佐美魚目

軒の端に立てる蚊ばしら水打てば松の木ぬれにたち移るかも

伊藤左千夫

蚊柱のいのちあつまる音のせり

大口元通

蚊柱をくぐりて宵のもの忘れ

松村蒼石

蚊柱を崩して飛蟬の雨太し

小松研風

蚊柱に乳房がゆれて海女の軒

杉沢つきえ

蚊柱や前触もなく旅戻り

名見崎新

歳時記には、力は春や秋、さらに冬にも登場します。春は「春の蚊」「春蚊」「初蚊」です。

春の蚊や一つとまりし雛の顔

正岡子規

春の蚊よ竹林に風呂焚きつけて

北原白秋

春の蚊とうなづけば声返すなり

水原秋桜子

春蚊鳴く耳のうしろの暗きより

小林康治

秋は「秋の蚊」「別れ蚊」「残る蚊」「蚊の名残」「後れ蚊」「溢蚊」「哀れ蚊」「八月蚊」です。

残る蚊や^{かた}敲きはづして待つ心

許六

秋の蚊のよろよろと来て人を刺す

正岡子規

音もなく来て残り蚊の強く刺す

沢木欣一

あぶれ蚊のほめかぬ壁をたよりかな

鬼貫

あぶれ蚊や夜なべの灯吊る壁のもと

富田木歩

哀れ蚊やねむりぐすりも気休めに

石川桂郎

冬に登場する力の季語は「冬の蚊」「冬蚊」です。

冬蚊刺すあと静脈のにじみたる

阿部みどり女

旅の夜の未明豪雨に冬蚊出づ

岡田日郎

参考文献：新編 俳句歳時記<春> 昭和57年、<夏> 昭和57年、<冬> 昭和56年 講談社／
大歳時記 第一巻 句歌春夏 集英社 平成1年／カラー図説日本大歳時記 講談社 昭和58年／
鳥獣虫魚歳時記（春・夏の巻） 朝日新聞社 平成12年 (小川賢一)

自然のたより

No. 268 2002. 1. 5
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

歳時記の双翅類昆虫—蝶—

今回はハエです。ハエは単に「蝶」としては夏の季語であり、多く詠まれています。また、「家蝶」「姫家蝶」「五月蝶」「金蝶」「銀蝶」「蒼蝶」「黒蝶」「縞蝶」「肉蝶」「籠甲蝶」「糞蝶」「馬蝶」「牛蝶」「蟹蝶」などの種類のほかに、「蝶の声」「蝶を打つ」、さらに「蝶取紙」や「蝶取リボン」といった懐かしい言葉が季語になっています。蒼蝶は黒蝶、籠甲蝶は糞蝶のことです。ハエは一匹いても気になりますが、季節がよくなり沢山増えるとうるさくなります。そこで、五月蝶は「五月蝶い」で「うるさい」と読み、「騒ぐ」や「沸く」などに掛かる枕詞です。

やれ打つな蝶が手をすり足をする 一茶

は有名な俳句です。鋭い観察力で、嫌われる蝶の仕草を擬人的に愛らしく表現しています。

五月蝶なす荒ぶる神もおしなべてけふはなごしの祓へなりけり 藤原長能

憂き人の旅にも習へ木曾の蝶 芭蕉

蝶はじき怒る心よ手束弓 嵐雪

蓋すれば出て行く蝶の羽音かな 牧童

雪信が蝶打ち払ふ硯かな 蕪村

蝶にくし心の先へたち廻り 曉台

金蝶のごとくに生きて何をいふ 加藤楸邨

寝にもどるのみのわが部屋生くる蝶つけて蝶取紙ぶらさがる 寺山修司

ところで、蝶は夏だけでなく、「春の蝶」「蝶生る」「蝶の子」として春の季語にもなり、また「秋の蝶」「残る蝶」「後れ蝶」などは秋の季語にもなっています。

汎返り又居ずなりぬ春の蝶 高濱虚子

児の指の飴舐めにくる春の蝶 船田一路

憎むことまた始まりぬ蝶生れ 山口青邨

蝶生るなにかと言ひて妻太る 清水基吉

草庵の弱りはじめや秋の蝶 文草

秋の蝶一つ真水の上に死す 中村草田男

秋の蝶うてば減りたる淋しさよ 高浜虚子

追へば皆天井にあり秋の蝶 織田羊堂

山宿のランプの火屋に残る蝶 野本マサ子

参考文献：新編 俳句歳時記<秋> 清崎敏郎 講談社 昭和 56 年

カラー図説日本大歳時記座右版 水原秋櫻子・加藤楸邨・山本健吉(監修) 講談社 昭和 58 年

新訂 現代俳句歳時記 石田波郷・志摩芳次郎 主婦と生活社 昭和 63 年

大歳時記第一巻 句歌春夏 山本健吉(監修) 集英社 平成 1 年

(小川賢一)

>>>>>>>>>

自然のたより

No. 269 2002. 1. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

>>>>>>>>>

歳時記の双翅類昆虫—蚋・ががんぼ—

これまで、アブ、ハエ、カと代表的な双翅類昆虫をみてきましたが、歳時記を覗いていて、面白い種類も登場します。例えば、ブユです。「蚋」「蠶子」「ぶよ」「ぶゆ」として夏の季語で出てきます。ブユは平地や山地の川で発生します。注射針のような口を刺して血を吸う蚊と違い、雌は皮膚を噛み切り、傷口から流れ出た血を舐めます。傷口は腫れてとても痒く、また血はなかなか止まりません。俳句では、旅人が蚋に執拗につきまとわれている場景がよく描かれていて、今も昔も人に嫌われていたことがわかります。

黒塚や蚋旅人を追ひまわし
苦しさに休めば蚋のたかりけり
蚋群れて雨のほろつく山路かな
空手もて払へりあらぬ方の蟆子
蚋搏って川瀬を渡る袖夫婦
蚋除けの長靴履いて袖夫婦
人一人居らぬ山中蚋殺す
城ヶ島乾けり蚋にまつはられ
石人の嘆きの蟆子のおびただし
血を噴いて指につぶれぬ出羽の蟆子

暁台
闌更
嵐峯
三橋敏雄
吉田未灰
高橋春灯
古屋秀雄
戸川稻村
阿波野青畝
桂 信子

ガガンボも登場します。「蚊の姥」「蚊蠶蛉」「大蚊」はいずれもガガンボのことです。姿はカに似ていますが、吸血することではなく、長い脚からくる姿のイメージや大きい体とは対照的に、ゆっくりした動きがユーモラスなのか、意外と作品があります。

障子打つががんぼにさへ旅心
ががんぼの足ながすぎて落ちにけり
蚊とんぼの必死に交む一夜きり
山の夜のねむさも過ぎぬ蚊の姥と
がんぼや並びて細き子のうなじ
ががんぼやうたたねのゆめ淡かりき
ががんぼの所詮脇役月の出づ
ががんぼのタップダンスの足折れて

高濱虚子
平井照敏
山口誓子
森 澄雄
関根黄鶴亭
森 澄雄
吉田鴻司
京極杞陽

参考文献：カラー図説日本大歳時記座右版 水原秋櫻子・加藤敬輔・山本健吉（監修） 講談社 昭和58年

新訂 現代俳句歳時記 石田波郷・志摩芳次郎（編） 主婦と生活社 昭和63年

大歳時記 第一巻 句歌春夏 集英社 平成1年

鳥獣虫魚歳時記（春・夏の巻） 朝日新聞社（編） 朝日新聞社 平成12年

(小川賢一)

>>>

自然のたより

No. 270 2002. 2. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

>>>

歳時記の双翅類昆虫—まくなぎ・搖蚊—

珍しい言葉で「まくなぎ」が詠われています。「まくなぎ」は「蟻蛉」と書き、野道を歩いていると目のまわりにまとわりついて飛び交う小さな双翅類昆虫の総称です。「めまとい」「めたき」「めまわり」「糠蚊」「蟻」などとも呼ばれます。

まくなぎの真只中に童女かな
むしむしと蠍多き頃の嵯峨
蠍のまとふ^{まなじり}毗^ひ美しや
目まとひを忘れゐる間も払ひをり
目まとひのまつはるほどに切なけれ

遠藤七狼
高野素十
後藤夜半
藤本南斗
松本たかし

これまで見てきたように、歳時記の季語になっている双翅類昆虫は日常生活や旅先で頻繁に見られる種類です。そこで、気づくことはユスリカが見当たりません。今日、街中でもユスリカがつくる蚊柱はよく見かけるし、田んぼでもユスリカの幼虫が沢山います。当然、昔もユスリカは力とともに身のまわりに普通にいたと想像されます。ユスリカが俳人たちの目に止まらなかつたはずがないでしょう。ユスリカは吸血しない以外、姿や大きさや動きが素人目には力に似ている種類が多くいます。力とほぼ同じ大きさのユスリカが群飛していると力と区別することは一般の人はできないでしょう。実際、ユスリカを力と思い込んでいる人に度々出会います。あなたはどうですか？ そう考えていくと、「蚊」や「蚊柱」、「蟻蛉」の中にユスリカを詠んでいるものはないでしょうか。実際、歳時記の解説の中には、蟻蛉を又力類やユスリカ（搖蚊）類と説明しているものもあります。そこで改めて、ユスリカの生態や行動に照らし合わせるとユスリカではないかと思われる作品があります。そのいくつかを挙げてみます。

襟掛けでれば出初めし春蚊かな
水の上の蚊柱人に移りけり
淡々と野菜の皿に蚊は寄りて妻と二人の食事を終ふる
秋の蚊の灯より下り來し軽さかな
残る蚊の畠の明さを飛びにけり
屠殺場に冬蚊柱のしげき日や
田は青く蟻蛉抜けてゆくひとり

下田実花
出牛青朗
近藤芳美
高浜年尾
河東碧梧桐
小林清之介
小木ひろ子

冬でもユスリカは発生し、目中に水際や水辺の近くを飛んでいたり、小さな蚊柱をつくります。季節が進むと川面には大きな蚊柱をよくつくります。夜に灯火に誘われて、食事時に室内に侵入することも頻繁です。田んぼの畦や農道でもユスリカの蚊柱はよく見られます。秋の日中、気温の低下とともに、弱々しく、ゆっくりと飛びます。このような観点から選びました。ユスリカが詠まれるのはユスリカと力を識別できないのか、あるいは文学的藝術的観点から特に区別する必要性がないのでしょうか。興味が尽きません。

参考文献：カラー図説日本大歳時記座右版 講談社／新訂現代俳句歳時記 主婦と生活社／大歳時記第一卷句歌春夏 集英社／鳥獣虫魚歳時記（春・夏の巻） 朝日新聞社 (小川賢一)

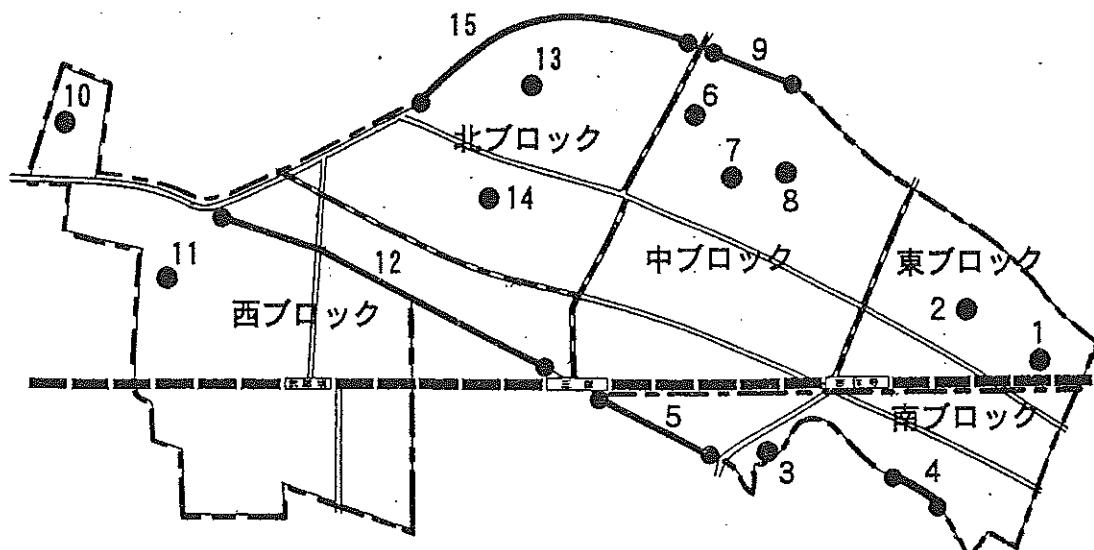
自然のたより

No. 271 2002. 2. 20
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

武蔵野市の昆虫観察ポイント チョウ <その1>

武蔵野市にはいったいどんな昆虫がいるのでしょうか。どこに行けばどんな昆虫を観れるのでしょうか。近年(1999~2001年)の調査記録を基に武蔵野市を東・南・中・西・北の5ブロックに分け、各ブロック内に数ヶ所の昆虫観察ポイントを選定し一覧表にしました。

【武蔵野市のチョウ観察ポイント】



No. 観察地 和名	西ブロック					東ブロック					北ブロック				
	1 本田北公園 ※東ブロック	2 本宿小学校 ※南ブロック	3 井の頭公園 4 井の頭公園 ※西ブロック	5 玉川上水 (三鷹駅→万助橋)	6 市陸上競技場周辺 ※中ブロック	7 木の花小路公園 8 成蹊学園 ※北ブロック	9 千川上水 (更新橋→吉祥寺橋)	10 小金井公園 ※北ブロック	11 仙川水辺公園 (境橋→三鷹駅)	12 玉川上水 ※北ブロック	13 千川上水 関前公園 (更新橋)	14 中央公園 ※北ブロック	15 千川上水 千川上水 ※北ブロック		
アオスジアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カラスアゲハ															
キアゲハ			●												
クロアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ジャコウアゲハ															
ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ウラギンシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ウラナミシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ツバメシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ベニシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ムラサキシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ルリシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	9	9	1	11	11	9	6	12	11	9	7	5	8	5	8

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。
 (山崎誠)

[参考資料] 「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課
 「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年~2000年」 むさしの自然指標調査会

自然のたより

No. 272 2002. 3. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の昆虫観察ポイント チョウ (その2)

武蔵野市にはいったいどんな昆虫がいるのでしょうか。どこに行けばどんな昆虫を観れるのでしょうか。近年(1999~2001年)の調査記録を基に武蔵野市を東・南・中・西・北の5ブロックに分け、各ブロック内に数ヶ所の昆虫観察ポイントを選定し一覧表にしました。

【武蔵野市のチョウ観察ポイント】

No. 観察地 和名	1 本 東 ブ ロ ッ ク	2 本 宿 小 学 校	3 井 の 南 部 ク	4 井 の 頭 公 園	5 玉 川 上 水 (三 鷹 駅 万 助 橋)	6 市 陸 上 競 技 場	7 木 の 花 小 路 公 園	8 成 蹊 学 園	9 千 川 上 水 (新 橋 吉 祥 寺 橋)	10 小 仙 川 水 辺 公 園	11 金 井 公 園	12 玉 川 上 水 (境 橋 三 鷹 駅)	13 中 央 公 園	14 北 ブ ロ ッ ク	15 (武 蔵 野 女 子 学 院) 更 新 橋	
	1 本 宿 小 学 校	2 本 田 北 公 園	3 井 の 南 部 ク	4 井 の 頭 公 園	5 玉 川 上 水 (三 鷹 駅 万 助 橋)	6 市 陸 上 競 技 場	7 木 の 花 小 路 公 園	8 成 蹊 学 園	9 千 川 上 水 (新 橋 吉 祥 寺 橋)	10 小 仙 川 水 辺 公 園	11 金 井 公 園	12 玉 川 上 水 (境 橋 三 鷹 駅)	13 中 央 公 園	14 北 ブ ロ ッ ク	15 (武 蔵 野 女 子 学 院) 更 新 橋	
クロコノマチョウ			●	●		●										
サトキマダラヒカゲ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ヒカゲチョウ			●	●	●	●	●	●	●							
ヒメウラナミジャノメ			●	●	●	●	●	●	●							
ヒメジャノメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
キチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
スジグロシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ツマキチョウ			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
モンキチョウ				●												
モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
イチモンジセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
キマダラセセリ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
コチャバネセセリ																
ダイミヨウセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
チャバネセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
アカタテハ					●	●										
キタテハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ゴマダラチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
コミスジ					●	●										
ツマグロヒヨウモン																
ヒメアカタテハ	●	●		●												
ミドリヒヨウモン																
ルリタテハ					●	●										
アサギマダラ							●	●								
	24	12	11	4	20	16	13	3	19	10	16	6	3	10	4	5

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。
(山崎誠)

[参考資料] 「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課
「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年~2000年」 むさしの自然指標調査会

自然のたより

No. 273 2002. 3. 20

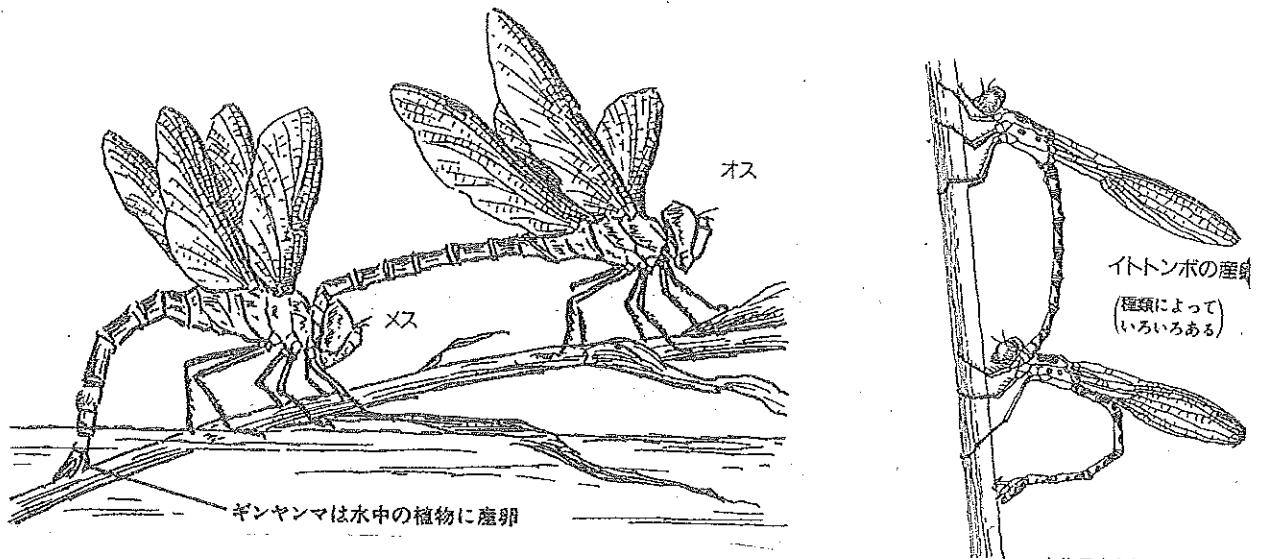
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の昆虫観察ポイント トンボ〈その1〉

武蔵野市にはいったいどんな昆虫がいるのでしょうか。どこに行けばどんな昆虫を観れるのでしょうか。近年(1999~2001年)の調査記録を基に武蔵野市を東・南・中・西・北の5ブロックに分け、各ブロック内に数ヶ所の昆虫観察ポイントを選定し一覧表にしました。



大竹昌夫1990: 読文堂新光社/引用

観察地 和名	No.														
	1 本宿 学校	2 本田 北公園	3 井の 頭公 園	4 井の 頭公 園	5 玉川 上水 (三鷹 駅→ 万助 橋)	6 市陸上競 技場周 辺	7 木の花小路 公園	8 成蹊學 園	9 千川上水 (更新 橋→ 吉祥寺 橋)	10 小金井公 園	11 仙川水辺公 園	12 (境 橋→ 三鷹 駅)	13 中央公 園	14 千川上水 (武 蔵野 女子 学院 更新 橋)	
オオアオイトトンボ			●	●									●	●	
ホソミオツネントンボ			●	●											
アオモンイトトンボ	●	●				●	●			●	●	●	●	●	
アジアイトトンボ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●
オオイトトンボ						●		●	●						
キイトトンボ															
クロイトトンボ			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
モノサシトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ハクロトンボ			●	●	●	●	●	●		●	●	●			
オオヤマトンボ													●	●	
オニヤンマ						●	●								
クロスジキンヤンマ			●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ギンヤンマ						●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ヤブヤンマ						●	●	●	●	●	●	●	●	●	

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。

(山崎誠)

[参考資料]「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課
「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年~2000年」 むさしの自然指標調査会

自然のたより

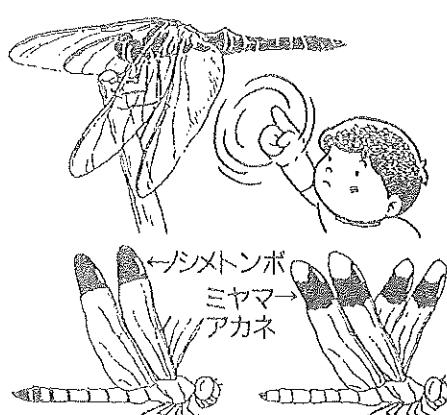
No. 274 2002. 4. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

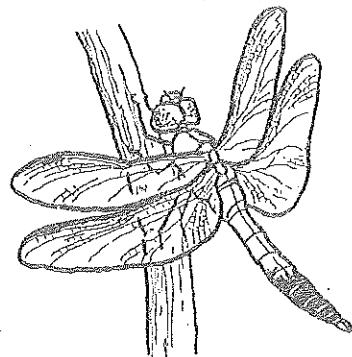
武蔵野市の昆虫観察ポイント トンボ (その2)

武蔵野市にはいったいどんな昆虫がいるのでしょうか。どこに行けばどんな昆虫を観れるのでしょうか。近年(1999~2001年)の調査記録を基に武蔵野市を東・南・中・西・北の5ブロックに分け、各ブロック内に数ヶ所の昆虫観察ポイントを選定し一覧表にしました。

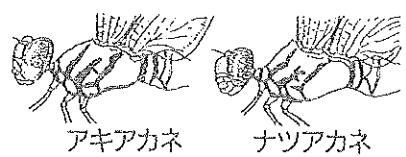
アカトンボの仲間



シオカラトンボ



脚の模様の違い



大竹昌夫1990:誠文堂新光社/引用

No. 観察地 和 名	(武蔵野女子学院 (更新橋))																	
	1 本田 本宿小学校	2 本田北公園	3 井の頭公園	4 井の頭公園	5 玉川上水	6 市陸上競技場	7 木の花小路公園	8 成蹊学園	9 千川上水	10 小金井公園	11 玉川上水	12 仙川水辺公園	13 中央公園	14 関前公園	15 干川上水			
アキアカネ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
ウスバキトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
オオシオカラトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
コシアキトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
コノシメトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シオカラトンボ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
シオヤトンボ																		
ショウジョウトンボ																		
ナツアカネ																		
ノシメトンボ	●	●	●															
ハラビロトンボ																		
マイコアカネ																		
マユタテアカネ																		
リスアカネ																		
14	7	7	3	7	7	5	1	12	7	5	5	1	9	5	11	4	11	9

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。

(山崎誠)

自然のたより

No. 275 2002. 4. 20
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

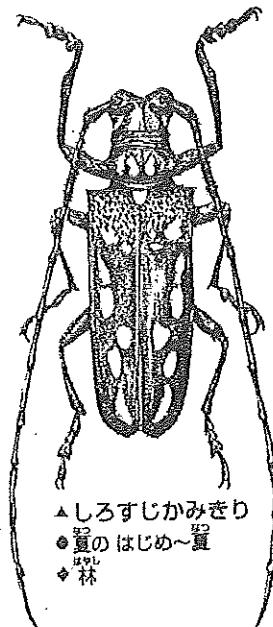
武蔵野市の昆虫観察ポイント コウチュウ <その1>

前号までにチョウ・トンボを紹介したので、今回は甲虫をまとめました。市内の雑木林の激減により大幅に生息圏が減少し、種類数が減ったのは甲虫類です。現在、市内に残っている雑木林はすべて老木が多く昆虫の生息には不適当です。

その昔、雑木林にはいるとブーンと樹液の匂いがしました。その匂いを求めさがしてみるとそこは昆虫たちの集会所『高級レストラン』です。カブトムシを親分として各種クワガタ、コガネムシ、派手な姿のチョウ、怖いか顔したスズメバチが群がり、夜は違う虫も来ています。

樹液はシロスジカミキリがかじった幹の傷がもとになって出ることが多く、シロスジカミキリのいない林では樹液はありません。

手入れされた初夏から夏にかけて雑木林に入りさほど太くないクヌギ、コナラの幹を思い切り蹴飛ばしたり、グラグラゆらすと落ちてくる白条天牛(シロスジカミキリ)、つかまえるとギーギー鳴いた思い出のある市民の方もいらっしゃるのではないでしょうか。



△しろすじかみきり
 ●夏のはじめ～夏
 ♀林

観察地 和名	(武蔵野女子学院 更新橋)																
	No.	1 本宿 ブロッ ク	2 本田 小学校	3 井の頭 公園	4 井の頭 公園	5 玉川 上水	(三鷹 駅 万助 橋)	6 市陸上競技場	7 木の花小路公 園	8 成蹊学園	9 千川上水	(更新橋 →吉祥寺橋)	10 小金井公園 (境橋 →三鷹駅)	11 玉川上水	12 仙川水辺公園	13 中央公園 (北ブロック)	14 関前公園
アオオサムシ エゾカタビロオサムシ				● ● ● ●													
カタジロゴマフカミキリ クロカミキリ ゴマダラカミキリ センノカミキリ テツイロヒメカミキリ ナガゴマフカミキリ ブドウトラカミキリ				● ● ● ●				● ●				●					
アオカミキリモドキ トフコメツキ トウキョウ ヒメハンミョウ				● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	
	12	2 2 0	9 7 2	0	2 2 0	0	2 2 0	0	2 2 0	0	1 0 0	0	2 2 0	0			

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。
 (山崎誠)

[参考資料]「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課
 「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年～2000年」 むさしの自然指標調査会

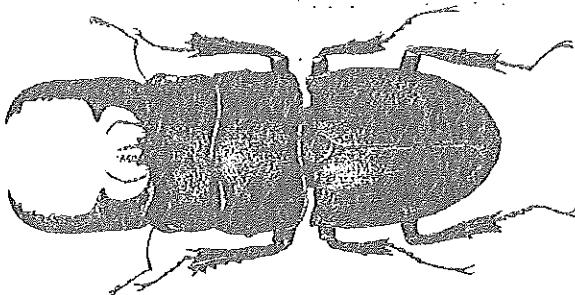
自然のたより

No. 276 2002. 5. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の昆虫観察ポイント コウチュウ (その2)

市内にはヒラタクワガタも生息していますが、公園にはいないようです。個人住宅のクヌギ、コナラ等の樹液にいます。激減し、かろうじて生存している種類なので保護したい昆虫ですね。



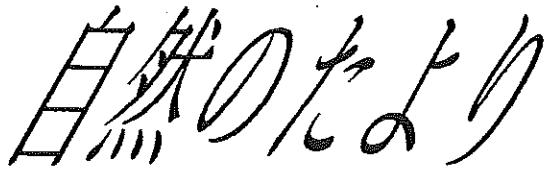
【武蔵野市のコウチュウ観察ポイント】

No. 観察地 和名	1 『東 本 宿 小 学 校 ブ ロ ッ ク』	2 『本 田 北 公 園 ブ ロ ッ ク』	3 『井 の 頭 公 園 ブ ロ ッ ク』	4 『井 の 頭 公 園 ブ ロ ッ ク』	5 『玉 川 上 水 (三 鷹 駅 万 助 橋) 川 流 域』	6 『市 陸 上 競 技 場 花 小 路 神 田 川 周 辺』	7 『木 の 成 蹊 学 校 市 陸 上 競 技 場 周 辺』	8 『千 川 上 水 (更新 橋 吉 祥 寺 橋) 木 の 花 小 路 公 園 市 陸 上 競 技 場 周 辺』	9 『千 川 上 水 (更新 橋 吉 祥 寺 橋) 木 の 花 小 路 公 園 市 陸 上 競 技 場 周 辺』	10 『西 ブ ロ ッ ク』	11 『小 金 井 公 園 ブ ロ ッ ク』	12 『玉 川 上 水 (境 橋 三 鷹 駅) 仙 川 水 辺 公 園 ブ ロ ッ ク』	13 『北 ブ ロ ッ ク』	14 『中央 公 園 (武 蔵 野 女 子 學 院 ブ ロ ッ ク) 境 橋 三 鷹 駅 ブ ロ ッ ク』	15 『千 川 上 水 ブ ロ ッ ク』
コクワガタ			●	●				●							
ヨツボシケシキスイ			●	●											
ウスチャコガネ			●	●											
オオクロコガネ			●	●											
カナブン			●	●											
コフキコガネ			●	●											
シロテンハナムグリ			●	●											
スジコガネ			●	●											
セマダラコガネ			●	●											
ヒメコガネ			●	●											
マメコガネ			●	●											
センチコガネ						●	●								
アカホシテントウ			●												
キイロテントウ			●	●	●										
ナナホシテントウ		●	●		●										
ナミテントウ		●	●		●										
ニジュウヤホシテントウ		●	●		●										
ヒメカメノコテントウ		●	●		●										
ムーアシロホシテントウ		●	●		●										
クロウリハムシ			●												
コガタルリハムシ			●	●											
テントウノミハムシ			●	●	●										
ドウガネサルハムシ			●	●											
ヒメカメノコハムシ			●		●										
24	4	4	0	23	14	7	0	5	5	0	0	0	4	0	1
3	6	2	1	0											

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。
(山崎誠)

[参考資料] 「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課
「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年～2000年」 むさしの自然指標調査会

イラストは「こんちゅうけんすん図鑑」須田孫七／チャイルド本社／引用



No. 277 2002. 5. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎0422-54-4540

ロシア春夏脳炎

むさしの・多摩・ハバロフスク協会の会員がハバロフスクとの交流活動を通して、シベリアの大自然をフィールドに川下りなどの野外活動や植林などの森林保護活動をしています。その際、森林地帯に入ることもあり、ダニに刺されるケースが時々見受けられます。シベリアのダニの中には脳炎を媒介するものがいるので紹介します。シベリアで気をつけたいダニ媒介性脳炎はロシア春夏脳炎です。ロシア春夏脳炎は主にシベリアの森林地帯で森林伐採の従事者が病原ウイルスを保有しているマダニ（大きさ数mm～1cm以内）に刺されて感染して発熱し、中枢神経が冒され、死亡することもあります。快復後も頸部や上肢の麻痺などの後遺症が残ります。この脳炎はチェコ、ハンガリー、ポーランド、ドイツ、オーストリアなどの中央ヨーロッパからコーカサス、ウクライナ、中央アジア、ロシア、極東ロシアにかけて広範囲で患者が発生しています。ヨーロッパ地域と旧ソ連地域では媒介するマダニの種類が違い、病原ウイルスにも若干の違いがありますが、症状や治療後の経過などはほぼ同じです。

<症状・後遺症>

病原ウイルスを保有しているマダニに刺されると（吸血されなくても刺されるだけで感染するといわれています）、1～2週間の潜伏期間の後、夏風邪様の症状が数日あり、一旦おさまります。しかし、その1週間後ぐらいから頭痛、意識障害、麻痺、感覚障害などが現れます。発症すると、死亡率は1～2%で、頸部から上腕に麻痺などが残り易く、旧ソ連地域のものはより重篤といわれています。ダニに刺されても症状がでなければ大丈夫です。

<発生状況>

患者の発生数は1997年のロシアで6,539例、チェコで550例、ハンガリーとポーランドで200例強です。ドイツでは年間150～300例の患者が発生しています。

<予防対策>

ドイツでは2種類のワクチンが市販されています。ロシアでもワクチンが製造されています。オーストラリアでは国民一般に広くワクチン接種が行われています。極東ロシアでは在留邦人の一部がワクチン接種を受けているとのことです。しかし、ワクチン接種は3回行うので旅行などの短期滞在の場合には受け難いでしょう。そこで、ダニに刺されない対策はとても重要です。ダニの活動する初夏～秋に灌木林や森林地帯に入る場合、肌をできるだけ露出しないようにして、肌の露出部に虫除けスプレーやクリーム等の虫除け剤を塗布したり、ダニが肌や服についていないか確認したりすることが大切です。

<日本での感染例>

1993年10月、北海道函館市近郊の酪農家の女性が発熱と頭痛の後、中枢神経の障害を起こしました。検査の結果、ロシア春夏脳炎ウイルスに対する抗体が高値で検出されたことから、ロシア春夏脳炎あるいは近縁の脳炎として国内で感染した初めてのケースと診断されました。また、周辺地域のイヌもウイルスを保有していることが明らかになり、北海道には既にロシア春夏脳炎が存在していると思われます。

(引用文献) 緒方隆幸：ロシア春夏脳炎ウイルス研究を辿って、日本医事新報 No.9811, 57-59, 1997

宮村和夫・伊東久雄・三宅喜代子：旧ソ連地域の感染症、感染症 29, 79-87, 1999

(小川賢一)

自然のたより

No. 278 2002. 6. 5

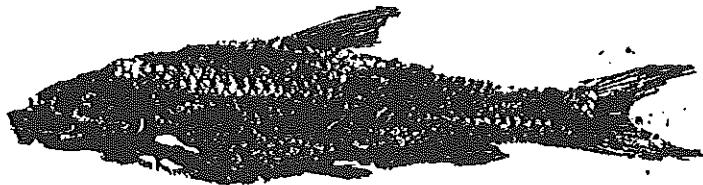
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

32年前の善福寺池の魚たち

部屋を片付けていたら懐かしい魚拓が出てきた。1970年10月11日付けの魚拓は今では居なくなった善福寺池のヒガイとワカサギである。魚拓を見ていると当時の善福寺池の様子の記憶が思い出されてきたので記しておこうと思う。

当時の善福寺池の水質は下池の方は現在とさほど変わらないが、上池の方はもっと透明感があった。それは池底の数箇所から湧水があったためと思われ、湧水部の底は砂質でオオカナダモと少量だがエビモが茂っていた。

左: ワカサギ 右: ヒガイ (原寸大)



《 1970 年頃の魚達 》

コイ : 今でも見られる代表的な魚であるが、数は現在ほど多くはなかった。両池に生息。

フナ : キンブナ、ギンブナ、ゲンゴロウブナの3種が居たと思われるが、雑種がおこりやすいとの事なので定かではない。キンブナ、ギンブナはマブナと呼んでいた。ゲンゴロウブナは通常ヘラブナと呼ばれる。両池に生息。

タナゴ : タイリクバラタナゴ、ヤリタナゴの2種を確認している。タイリクバラタナゴは両池に生息、ヤリタナゴは上池の湧水部周辺で採取できた。タイリクバラタナゴはオカメタナゴと呼んでいた。

モツゴ : 普通クチボソと呼んでいる。数は一番多かった。両池に生息。

タモロコ : 上池のみに生息していたが数は多くなかった。

オイカワ : 上池のみで一時、数尾確認。関東地方ではヤマベと呼ぶ。

ワカサギ : 上池のみに居て5尾ぐらいで群れを作り水面を泳いでいた。数は少なく5郡ぐらいを確認。3年間確認している。

ヒガイ : 上池の湧水部周辺で採取できた。生息範囲から推定するとビワヒガイという種類らしい。

ヨシノボリ : ダボハゼと呼んでいたが普通ダボハゼとは又マチチブのことを言うらしい。又マチチブが居た記憶はない。今でも生息しているので調べてみると、橙色型(トウヨシノボリ)と言う種類のようだ。両池に生息。

マス : 上池で他人が捕まえたので定かではないが、ニジマスの稚魚(体長10cmぐらい)と思われる。成魚が居た記憶はない。

カムルチー : 普通ライギョと呼ばれる。当時、稚魚を守って泳ぐ姿が見られたが、上池では葦が無くなつた為、下池では葦の整備とブラックバス放魚のため見られなくなつた。ライギョより強い魚が居るなんて当時思いもしなかつた。

(山崎誠)

自然のたより

No. 279 2002. 6. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

コップで飼う！救出したヤゴ

『小さな命を大切にしよう』と遅ればせながら都内の小学校でプール掃除に先駆け『ヤゴ捕り』を実施し4千匹以上のヤゴ（トンボ幼虫）を救出した学校もある。市内の学校でも環境学習・総合学習の一環として『学校プールのヤゴ救出作戦』が始まった。

残念ながら救出したあの処置ができず多くの学校で『救ったのはいいけれど、さてどうしよう』かがわからず死んでしまうケースが多かった。今年は、だれでもできるコップ飼育をやってみませんか。

1. 学校や家庭に池があれば逃がす。羽化するときに止まる水草（籠でもよい）木の枝（細い棒）がな いとトンボになれないで30～40cmぐらいのい枝をさしておく。
2. プランター、衣装箱、バケツでもだいじょうぶ。水草のかわりに生け花で使う「剣山」に長さ40～50cm、太さは割り箸ぐらいの小枝を数本挿しいれる。ヤゴはプラスチックは登れないで小枝か水草がないと死んでしまう。

最高に良い容器は「トロ箱」 大きさは50×50cm以上、深さ15cm以上あれば良い。置き場所はベランダでも屋上でも、半日、日が当たれば問題なし。

ヤゴをいれて羽化を見るなら室内でも可能。

3. 児童生徒が自宅に持ち帰ったヤゴはイラストのように1匹づつコップ飼育が便利です
 - ・一つのコップに何匹もいれると共食いする。コップは日向に置かない。水は濁ったら取換える。水道水でよい。
 - ・「割りばし」は羽化する時の「止まり棒」に必ずいれる。木の小枝でもよい。
 - ・ヤゴのえさは「イトミミズ・小さなミミズ。

赤虫・ぼうふら」がよい。

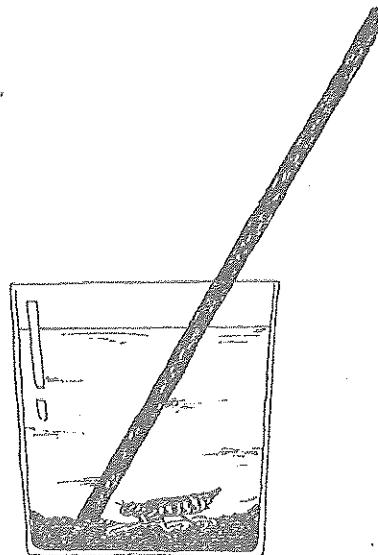
・「赤虫」（ユスリカの幼虫）は数cmの深さのいれもの（何でもよい）に水をいれて放置しておく。10日ぐらいたたら水を捨てる。いれものの底に5mm前後の細長い土がくっつき水を流してもくっついている。この中に「赤虫」が潜んでいる。ピンセットで採取しヤゴにあたえる。「赤虫」は区内のどこでも採集できる。いれものは、植木鉢の鉢皿が手頃でよい。

4. ヤンマ類のような大型ヤゴはコップ飼育は無理 大きめの飼育ケースを使い、「登り棒」も木の枝を使う。（上記2の方法がよい）

5. イラストはコップの底に土がはいっているが、いれなくてもよい。

*杉並区環境課：「杉並の街と自然」No. 69 にも類似原稿を掲載予定

(須田 研司)



自然のたより

No. 279 2002. 6. 20
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

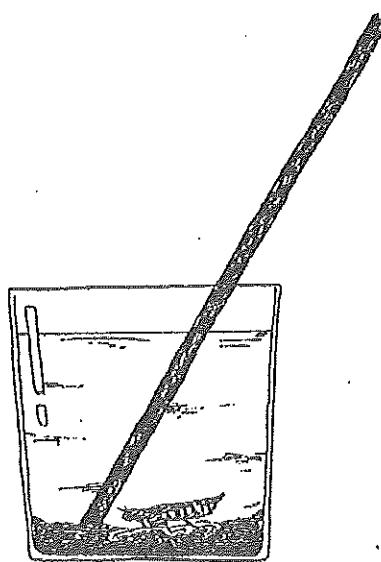
コップで飼う 救出したヤゴ

プール開き前の学校のプールや公園や庭先の池にはいろいろなトンボの幼虫（ヤゴ）が生息しています。プール清掃の時にヤゴを掬いコップ飼育をしてみませんか。今年の6月に4千匹以上のヤゴを掬った小学校もある。東京都学習センターでも『学校プールのヤゴ救出作戦』を奨励しているが『救ったのはいいけれど、さてどうしよう』かがわからず死んでしまうケースが多い。今年は、だれでもできるコップ飼育をやってみませんか。

1. 学校や家庭に池があれば逃がす。羽化するときに止まる水草（稻でもよい）木の枝（細い棒）がないとトンボになれないで30～40cmぐらいのい枝をさしておく。
2. プランター、衣装箱、バケツでもだいじょうぶ。水草のかわりに生け花で使う「剣山」に長さ40～50cm、太さは割り箸ぐらいの小枝を数本挿していれる。ヤゴはプラスチックは登れないで小枝か水草がないと羽化できない。
最高に良い容器は「トロ箱」、大きさは50×50cm以上、深さ1.5cm以上あれば良い。置き場所はベランダでも屋上でも多少日陰でもよくヤゴの羽化を見るなら室内に置いても飼育できる。
3. 児童生徒が自宅に持ち帰ったヤゴはイラストのように1匹づつコップ飼育が便利。
 - ・一つのコップに何匹もいれると共食いする。コップは日向に置かない。水は濁ったら取換える。水道水でもよい。
 - ・「割りばし」は羽化する時の「止まり棒」用に必ずいれる。小枝でもよい。
 - ・ヤゴのえさは「イトミミズ・小さなミミズ・赤虫・ぼうふら」がよい。学校プールで6～7月に採集した大きめのヤゴはまもなく羽化するので餌はいらない。
 - ・「赤虫」（ユスリカの幼虫）は数cmの深さのいれもの（何でもよい）に水をいれて放置しておく。10日ぐらいたたら水を捨てる。いれもの底に5mm前後の細長い土がくっつき水を流してもついている。この中に「赤虫」が潜んでいる。ピンセットで採取しヤゴにあたえる。「赤虫」はどこでも採集できる。いれものは鉢皿が手頃でよい。
4. ヤンマ類のような大型ヤゴはコップ飼育は無理なので大きめの飼育ケースを使い、「登り棒」も木の枝を使う。（上記2の方法がよい）
5. イラストはコップの底に土がはいっているが、いれなくてもよい。

*杉並区環境課:「杉並の街と自然」No. 69 にも類似原稿を掲載予定

(須田 研司)



自然のたより

No. 280 2002. 7. 5
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

?不思議な昆虫? ナナフシ

ナナフシはどんな虫?

ナナフシは草木の枝葉や茎または枯れた草に擬態した昆虫です。本来は南方系の昆虫で熱帯地方に多く、日本には18種類が確認されていますが、ほとんどは九州以南に住んでいます。

井の頭恩賜公園とその周辺のナナフシ

平成12年と13年の調査で、井の頭恩賜公園及び周辺の玉川上水においてナナフシモドキとニホントビナナフシの2種類が見つかりました。過去にはエダナナフシの記録もあります。

ナナフシの不思議??

姿形が小枝等に似ている事も不思議ですが、ナナフシにはもっと不思議な事があります。

- 【その1】オスがいなくてもメスだけで子孫を増やせる単為生殖ができるだけでなくオスがほとんど見つかっていない種類もいます。
- 【その2】脚が取れてしまっても、脱皮しながら再生することができます。
- 【その3】卵は草木の種のような形色をしているうえ蓋が付いていて、幼虫は蓋をはずして生まれます。

ナナフシの見つけ方!

春、4月中頃に体長1~2cmの幼虫が、エノキやケヤキ、コナラの若木の葉上に数匹集まっていることが多いので見つけやすいが6月中頃になると樹上高い所へ登ってしまうらしく見つけづらくなります。ですからこの間に見つけておくことが重要です。

まず、めぼしい木を上下左右から見て1匹目を発見することです。そうすれば今まで見終わった所でも見つけることができるものです。まったくよく擬態しているものだと感心させられます。次にナナフシのいた廻りの葉をよく見てナナフシの食べた葉を見つけて下さい。食べ後の形を覚え、次からはナナフシの食べた葉を探して他の木を見て回ります。ナナフシは自分の身体はうまく隠せても食べた葉までは隠せませんから。

ナナフシの種類と見分け方

井の頭恩賜公園で見つけたナナフシ2種と過去に記録のある1種の簡単な判別法を説明します。ただし、ここで説明する事柄は他の類似した種類にもあてはまるので詳しくは専門書で確認して下さい。

【ナナフシモドキ】

- 成虫になんでも翅が無い。
- 触角は短く前脚腿節(1節目)の半分ほどの長さ。
- 現在、井の頭恩賜公園で一番数が多い。
- オスはほとんど見つかっていません(国内で4例)。

【ニホントビナナフシ】

- 3齢幼虫から翅の形が見られる。成虫の後翅は薄いピンク色をしている。

触角は長く前脚より長くなる。

ナナフシモドキより圧倒的に数は少ないとと思われ平成12年に3齢幼虫1匹、13年に同種と思われる1齢幼虫1匹を見つけただけです。過去にトビナナフシとしての記録が昭和7年と10年にあるのみです。

【エダナナフシ】

成虫になんでも翅が無い。

触角は長く前脚と同じぐらいの長さ。

井の頭恩賜公園では昭和7年と14年に記録があります。

(山崎誠)

参考資料:「ナナフシのすべて」 岡田正哉 トンボ出版

「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課

自然のたより

No. 281

2002. 7. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武蔵野市の昆虫観察ポイント その他昆虫（その1）

午前中「シャーチャー」と鳴くクマゼミは暖地性のセミで三浦半島以南ではごく普通のセミです。大型のセミなので飛ぶ距離も長く今年の夏は中央高速道・糸廻堂SA（山梨県）で数匹鳴いていました。武蔵野市内でも毎年鳴き声を聞けます。

市内に生息するクマゼミは暖かい地域から飛来したと考えられていましたが温暖化に伴ない土着の可能性もあります。土着しているか否かの確認は「ぬけがら」探しが決め手です。都内では代々木公園、大井埠頭公園周辺、杉並区では善福寺公園下池、馬橋公園、井草1丁目、上井草1・2丁目、成田東2丁目で近年「ぬけがら」が発見されています。市内でも生息の可能性はあるので探して下さい。

[イラストの「ぬけがら」はすべて原大です。アブラゼミの「ぬけがら」よりも大きくてややかにひかっていません]

中くらい（体長26-32mm、胸の巾は約15mm）。

触角の毛が少ない。第3節は第2節と同じ長さで細い。

→ ミンミンゼミ



触角の毛が多い。第3節は第2節の1.5倍でやや太い。

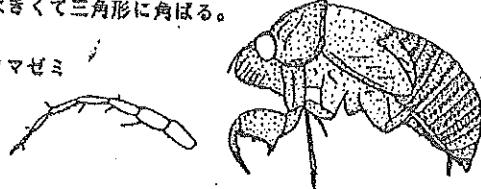
→ アブラゼミ



大きい（体長33mm以上、胸の巾18mm以上）。

横から見ると額の部分が大きくて三角形に角ばる。

→ クマゼミ



和名	No.	1 2		3 4		5		6		7 8		9		10 11 12		13 14 15					
		東ブロック	本宿小学校	本田北公園	井の頭公園	南ブロック	玉川上水	（三鷹駅～万助橋）	木の花小路公園	市陸上競技場周辺	成蹊学園	千川上水	（更新橋～吉祥寺橋）	（境橋～三鷹駅）	玉川上水	仙川水辺公園	小金井公園	（三鷹駅～吉祥寺橋）	中央公園	千川上水	（武蔵野女子学院）
オオカマキリ	● ●				● ●														● ●		
コカマキリ	●				● ●	● ●	●												● ●		
ハラビロカマキリ					● ●	● ●	●												● ●		
アフラゼミ	● ● ●				● ●	● ●	● ●				● ●	● ●							● ●		
クマゼミ											● ●	● ●	●						● ●		
ツクツクボウシ					● ●	● ●	●												● ●		
ニイニイゼミ					●	●	●												● ●		
ヒグラシ						●	●												● ●		
ミンミンゼミ					● ●	● ●	● ●												● ●		
アメンボ					● ●	● ●	● ●												●		
ヒメアメンボ					● ●	● ●	● ●												●		
ツマグロオオヨコバイ					● ●	● ●	● ●														
イトカメムシ					●	●	●														
テングスケバ					● ●	● ●	●														
	14	10	7	4	12	10	7	2	2	1	0	0	1	4	0	3	1	6	4	0	4

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。

(山崎誠)

[参考資料] 「平成12年度 武蔵野市生物生息状況調査報告書」 武蔵野市環境部環境対策課

「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年～2000年」 むさしの自然指標調査会

[引用文献] 矢口哲一(1998);生きもの音が語る街の自然 岩波書店

自然のたより

No. 282 2002.8.5
 発行(財)武藏野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武藏野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

武藏野市の昆虫観察ポイント その他昆虫<その2>

市内の昆虫類で激減したのは草原に生息する虫たちです。戦前の市内は畠と畠を結ぶ農道は草が生え、中島飛行機工場内も雑木林とススキにめぐまれた「虫の楽園」を演出、工場内の樹液にはオオムラサキ、ヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、ススキ原はクツワムシ、キリギリス、マツムシ等が夜な夜な演奏会を開いていました。当時、農家の庭先でジーとミミズが鳴いていたのをご存じの方も多いと思います。ミミズが鳴くはずがありません。鳴いていたのはケラです。以前は総合体育館周辺に分布していました。

市内分布が限られているので下表には未記載ですが「鳴く虫の王様」と称され「日本一美鳴の主」と称されるカンタンは木の花小路公園と横川電気正門横に生息しています。環境的には玉川上水、千川上水にいてもよいのですが未確認です。

【武藏野市のカメムシ(2)・バッタ・ハチ観察ポイント】

No. 観察地 和名	1 東本宿 ブロッ ク	2 本田 小学校 ク	3 南 の 頭 公 園 ク	4 井 の 頭 公 園 ク	5 玉 川 上 水 (三 鷹 駅 万 助 橋)	6 市 陸 上 競 技 場 周 辺 ク	7 木 の 花 小 路 公 園 ク	8 成 蹊 学 園 ク	9 千 川 上 水 (更新 橋 → 吉 祥 寺 橋)	10 小 金 井 公 園 ク	11 仙 川 水 辺 公 園 ク	12 玉 川 上 水 (境 橋 → 三 鷹 駅)	13 中 央 公 園 ク	14 関 前 公 園 ク	15 千 川 上 水 (武 藏 野 女 子 学 院 ク)					
	1 東本宿 ブロッ ク	2 本田 小学校 ク	3 南 の 頭 公 園 ク	4 井 の 頭 公 園 ク	5 玉 川 上 水 (三 鷹 駅 万 助 橋)	6 市 陸 上 競 技 場 周 辺 ク	7 木 の 花 小 路 公 園 ク	8 成 蹊 学 園 ク	9 千 川 上 水 (更新 橋 → 吉 祥 寺 橋)	10 小 金 井 公 園 ク	11 仙 川 水 辺 公 園 ク	12 玉 川 上 水 (境 橋 → 三 鷹 駅)	13 中 央 公 園 ク	14 関 前 公 園 ク	15 千 川 上 水 (武 藏 野 女 子 学 院 ク)					
アカスジカメムシ										●										
ウズラカメムシ			●	●																
クサギカメムシ	●	●	●	●																
チャバネアオカメムシ			●	●																
エサキモンキ	●	●	●	●																
ツノカメムシ																				
アカスジキンカメムシ			●	●	●															
オンブバッタ	●	●	●	●	●					●	●	●								
イボバッタ	●		●																	
クルマバッタモドキ				●																
コバネイナゴ				●																
ショウウリヨウバッタ	●	●	●	●						●	●	●								
ツチイナゴ																				
ウマオイ				●	●					●	●									
クビキリギス				●	●															
ササキリ				●	●															
セスジツユムシ				●	●															
エンマコオロギ																				
ツツヅレサセコオロギ																				
カネタタキ																				
オオススメバチ	●	●		●	●					●	●	●								
クマバチ				●	●					●	●	●								
セイヨウミツバチ	●	●		●	●					●	●	●								
ミホンミツバチ	●	●		●																
	24	8	7	18	12	4	0	8	7	1	0	0	9	1	5	2	6	4	0	0

●は調査確認されたことを表します。 調査確認は幼虫も含みます。 井の頭公園は三鷹市も含みます。
 (山崎誠)

[参考資料]「平成12年度 武藏野市生物生息状況調査報告書」 武藏野市環境部環境対策課
 「むさしの自然指標調査会調査結果報告 1999年~2000年」 むさしの自然指標調査会

自然のたり

No. 283 2002. 8. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

水質汚染度のものさし 水生指標生物 ①

環境省では日本全国レベルで野生生物の生息状況を「自然環境保全基礎調査」として、市民参加も含め実施している。平成13年度は「セミのぬけがら」と「黄色の花の野生植物」を中心に調査した。調査は地域の片寄り、生物種の誤認等があるもの／＼日本の自然を評価する研究上の資料として各方面に活用されている。

武蔵野市では平成11年度の本誌に「自然環境のものさし 指標生物」として数回にわたって市内の指標生物（案）を記載した。「平成12年度」には武蔵野市内および周辺地域の野生生物の榮枯盛衰と現状・市民懇意の場、都立井の頭自然文化園の創立時の植物相・昆虫相等について「武蔵野市生物生息状況調査報告書」を刊行した。

その際、市民から『水生生物による水質汚染度の調査法はどうするの』『玉川上水はほんとうの清流復活なの？』『池や川の指標生物はなーに』…の質問が寄せられた。

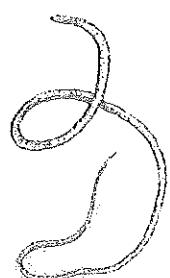
東京都環境局では都民に『身のまわりの自然に目をむけてもらい、その環境を評価してほしい』と普及啓発用に資料を発行しているが部数の関係もあって目に触れないことが多い。本稿は2000年に発行された「調べてみよう川の水質（川の中の生き物から見る水質）」を引用しました。

(須田孫七)

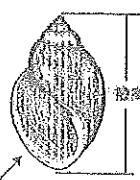
大変きたない水の指標生物



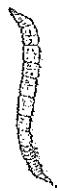
セスジユスリカ
(幼虫)
10mmくらい
ユスリカは多くの
種類があり、昔れ
いなどごろにすむ
ものもいる。



エラミミズ
大きさは最大40mm。
ピンクから赤色の糸状で
ちぎれやすい。
頭部ははっきりしない。
先端にえらをもつ。



ザガマキガイ
頭高5~10mm
頭のとがったところも
上にしてきて、口が
巻筒についている。



テヨウバエ
大きさは10mmくらい。
細長く、多刺はない。
下水、排水溝に生息している。
汚濁にすむ。



アメリカザリガニ
大きさは100mmくらい
流れの緩やかな浅い沼
のところに生息している。

体長

自然のたより

No. 284 2002. 9. 5

発行(財)武藏野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武藏野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

水質汚染度のものさし 水生指標生物 ②

283号に「大変きたない水の指標生物」を掲載しましたがもっとよごれると目で見える生物はいなくなります。

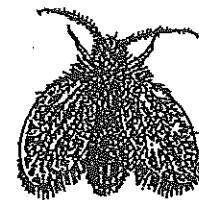
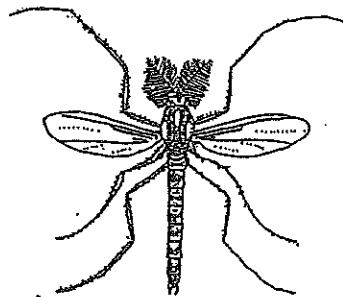
市内ではつい最近まで千川に前号イラストのような生物が確認されましたが桜堤団地建て替えにともない水質は良い方向に向かっているようです。水の中をさぐらなくてもチョウバエ、セスジユスリカは確認できるので汚染度がわかります。池やプールの上に多数のカがもやもやしているのを見たことがありますか。よく「蚊柱がたつ」というのはこのことで6~11月にみることができます。採集してみるとおなかが緑っぽいカです。夜電灯にも飛来しますが刺すことはありません。お隣りの神田川や善福寺川で夏の夜「蚊の大群」に悩ませられるのはセスジユスリカの「飛んで灯(火)に入る夏の虫」現象です。

もう一種ライトにくるのはチョウバエ(オオチョウバエ)の成虫です。台所・便所・風呂場等の壁に黒っぽい4mmぐらいの虫が止まっています。蝶・蛾のように翅に粉がついているのでさわると指に黒っぽい粉がつきます。ホシチョウバエは数ミリで小さくすぐ区別ができます。チョウバエ類は公園の公共便所の壁によくみられ、駅の便所にもよくいます。というのは幼虫の生息るのは汚い川・池のみならず、むしろ家庭や街中の雑排水の流路、汚水槽等を好み有機物を食べています。

[引用文献 根岸・武蔵(1983):都市害虫百科,朝倉書店]

大変きたない水の指標生物

チョウバエ類



セスジユスリカ

(須田孫七)

自然のたより

No. 285 2002. 9. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

水質汚染度のものさし 水生指標生物 ③

市内で「汚い水」が流れていた仙川も桜堤団地の改築とともにあって自然の復元・ビオトープ化が進み多様性の生物が息くづく川に変化してきた。

流域には強度の汚染水に生息するチョウバエ、サカマキガイ、セスジユスリカが散見する反面、水質回復を示すミズムシ、シマイシビルが共生している。となると下図に示すような生物がいても良いが現在はみられない。理由として昆蟲少年が欲しがるタイコウチ、ミズカマキリは水草の茂みに生息する昆蟲なので水草皆無の仙川では水質が良くなっても生活環境が整っていないので生存は無理といえよう。もう一つの理由は昔の仙川にいた水生昆蟲類は全て絶滅したので環境が良くなっても元がなく復活できない。タニシも同様で野鳥の足にでも付着してこない限り再来は無理であろう。

悪条件化を乗り越え自然復元化してきた仙川は仙川水辺公園、桜堤公園（公団中央公園）、桜堤遊歩道ともどもより多くの多種多様の水生植物、湿地性植物の植栽により復元したい。すでに下流の調布市／東一の橋ではハグロトンボ、コガタシマトビケラも確認されている。

(須田孫七)

[引用文献：調べてみよう川の水質、東京都環境局 2000]

きたない水の指標生物



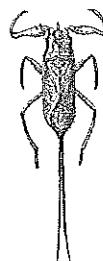
ヒル類
(シマイシビル)
30~40mm
水の中に沈んでいる
石のうら側に多い。



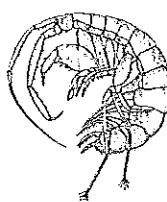
ミズムシ
10mmくらい。
石の下や
水草が多い。
ゆっくりはう。



イソコツブムシ
5~8mm
陸にいるダンゴムシに似て、
からだを丸めることができる
砂泥底や苔の間にいる。



タイコウチ
大きさは30mmくらい。
体は扁平で暗褐色で光沢はない。
池や沼、水田など流れの緩やかな
浅い場所に生息している。



ミズカマキリ
大きさは40mmくらい。
前足の節が長く、カマキリ
のように、他の小動物を
とらえる動きをする。



ニホンドロソコエビ
約5mm
体は縦に平たい。
紀長い触覚がある
ちぎれやすく、泥底にすむ。

タニシ
約40mm
タニシの主な種類は4種類である。
殻は滑く、赤褐色のふたがある。
泥底にすむ。

自然のたより

No. 286 2002. 10. 5
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

水質汚染度のものさし 水生指標生物 ④

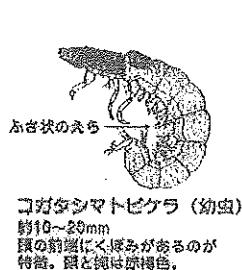
市民憩い場「井の頭公園・井の頭水門」は神田川のスタートラインになっている。昭和30年代から始まった河川改修によって三面張りの巨大下水となる寸前、市・関係者の努力によってコンクリート化はれ「さんかく公園下、水門～ゆうやけ橋」までの間に僅かながら昔の水辺景観が残され、休日は川遊びの子供の声が絶えない場となった。

平成12年度東京都環境局の調査によると汚水性のユスリカ類、糸ミミズ類、サカマキガイ、アメリカザリガニはあるものの、下図にある「少しそよごれた水の生物／汚れの度合いが数ランクきれいな水」の指標生物。スジエビ、ヤマトシジミ、カワニナが確認された。なお魚はコイ、タイリクバラタナゴ、モツゴ(クチボソ)、タモロコ、キンギョ、ブルーギル、ヨシノボリの7種が同地点から発見されている。その餌にもなる川底の小さな生き物は20種も産し神田川。三面張り水域より抜群の豊富さがみられた。水生・湿性植物はエビモ、ヒメガマ、サンカクイ、ナガエミクリ等16種が生育し豊な水辺環境を演出している。今後どんな生物が姿をみせるかその栄枯盛衰を見守りたい。

(須田孫七)

[引用資料; 調べてみよう川の水質、東京都環境局 2000 / 参考文献; 平成12年度中小河川環境実態調査報告書 神田川篇、東京都環境局]

少しそよごれた水の指標生物



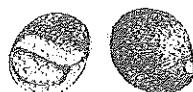
コガタシマトビケラ(幼虫)
約10~20mm
頭の前面にくぼみがあるのが特徴。
頭と尾は赤褐色。



ヒラタドロムシ類
(幼虫)
6~10mmくらい。
石にぴたりと
はりついている。



スジエビ
約50mm
黒褐色の縦模様がある。
汽水場にも住む。



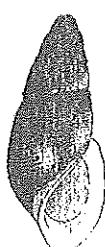
イシマキガイ
約10~20mm
殻は圓く、石に付着している。
少し塩分のある水に住んでいる。



ゲンジボタル
約20~30mm
体は墨色で、頭の上面の筋(頭の
よどみ)は、アーチ型の構
造がある。



オオシマトビケラ
約30mm
頭の表面が平たいのが特徴。
頭から尾にかけてがなく、
黒い色であり、体は茶色か
ら赤色でやわらかい。



カワニナ
殻は細く長い。
殻の上部にかけている
ことが多い。
殻高16mm~30mm



ヤマトシジミ
約20mm
殻腹は幼虫では黒褐色
成長すると黒くなる。



自然のたより

No. 287 2002. 10. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

水質汚染度のものさし 水生指標生物 ⑤

昭和30年代以降、市民の身近な河川から「きれいな水」はなくなった。里山が続々と開拓され田畠が広がる武蔵野は田園でも湧水が見られた。武蔵野市周辺では西荻窓駅北に流れる善福寺川川底、善福寺池、都立野川公園内に湧水がある。

観察会等で野山にでると透明度の高い水をみると参加者から「この水飲めますか」と良く聞かれる。その判断材料として下図の「きれいな水の指標生物」生息状況がきめてになる。少なくとも下図の半数以上の種類を確認したい。

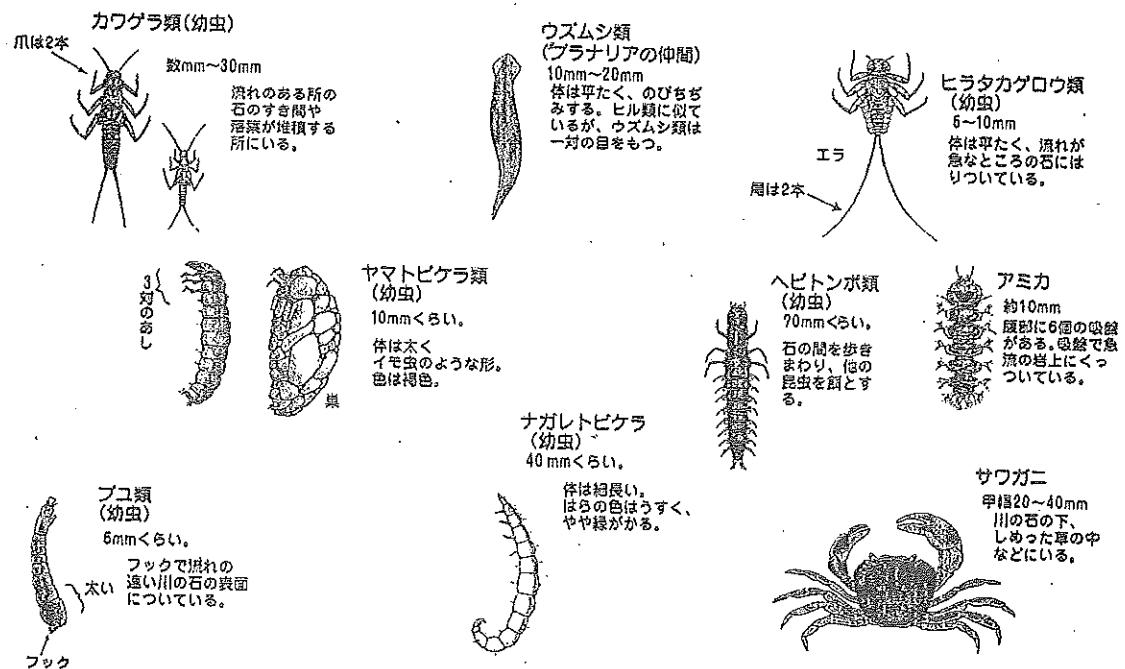
その他、水辺に咲いている山野草の花も指標になるといはれている。汚れている水の周辺は黄色の花が多く、きれいになるにしたがって白い花が混ざってくる。よりきれいな水辺になるとうすい紫・藍色系統の花が咲くという。ある研究者は「杉林の上空にトビが飛び、オオバコがはえていない道筋の水はきれい」ともいう。

以上の指標条件がそろっていても、生水飲用は健康状態、飲む量、体質によって可・不可が異なるのでご注意下さい。

[引用文献: 読んでみよう川の水質, 東京都環境局 2000]

(須田孫七)

きれいな水の指標生物



自然のたより

No. 288 2002. 11. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」①

日本を象徴する花・国花は『サクラ』、国鳥は『キジ』、『国蝶はオオムラサキ』とシンボルヲ制定した。戦後、薄れ行く郷土意識の向上、自然保護運動の普及・啓発のため各都道府県で「郷土の木・花」「郷土の鳥」を制定、それにならって一部の地方自治体でも「市の木・町の木」や花・鳥を制定した。近年は都道府県を象徴する「県のチョウを決めよう」の動きがある。選定基準は「いつでもどこでも見られる身近な種類」「特産種・地域限定種」「絶滅危惧種」「美麗種」「特異な生態種」…と様々。木・草・鳥ともども関東地方から紹介しよう。

	都 県 の チ ョ ウ	都県の鳥	都県の木・草
東京都	ナミアゲハ (幼虫はサンショウ、ユズ、グレープフルーツ、ミカン、カラタチを食べる)	ユリカモメ	イチョウ ソメイヨシノ
神奈川県	オナガアゲハ (幼虫はカラスザンショウ、サンショウ、イヌザンショウを食べる)	カモメ	イチョウ ヤマユリ
埼玉県	ミドリシジミ (幼虫はハンノキを食べる)	シラコバト	ケヤキ サクラソウ
千葉県	ルーミスシジミ (幼虫はイチイガシを食べる)	ホオジロ	イヌマキ ナノハナ

[資料は2002国立歴史民俗博物館ミュージアムショップ商品と石井雅幸氏情報による]

(須田孫七)

>>>

自然のたより

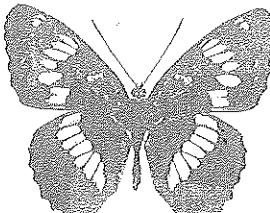
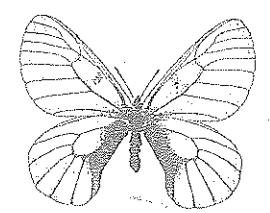
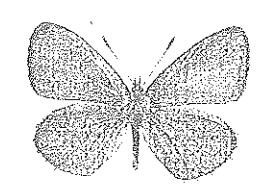
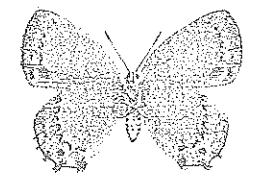
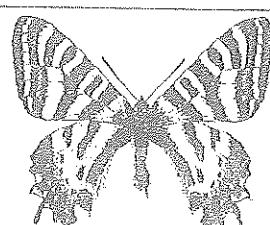
No. 289 2002. 11. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

>>

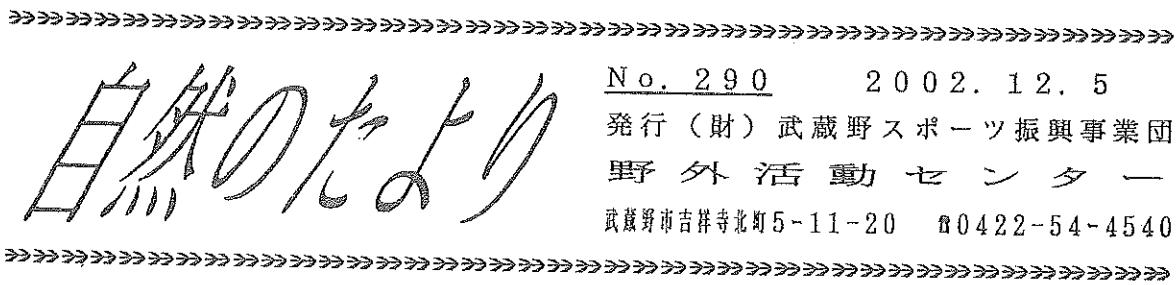
ご存じですか「県のチョウ」②

今回は関東地方の追加と東北地方の「自然シンボル」を紹介したい。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草	
茨城県	アサマイチモンジ (幼虫はスイカズラ、ハコネ ウツギ、クロミノウダイスカグ ラを食べる)		ヒバリ	ウメ バラ
栃木県	ウスバシロチョウ (幼虫はムラサキケマン、ジ ロウエンゴサク、ヤマエンゴ サクを食べる)		オオルリ	トチノキ ヤシオツツジ
群馬県	スギタニルリシジミ (幼虫はトチノキを食べる)		ヤマドリ	クロマツ レンゲツツジ
福島県	ウラキンシジミ (幼虫はトネリコ、コバト リコ、ヤマトアオガモ、ホリ バアオガモを食べる)		キビタキ	ケヤキ ネモトシャクナゲ
宮城县	ヒメギフチョウ (幼虫はウスバサイシンを食 べる)		ガン	ケヤキ ミヤギノハギ

[資料は2002国立歴史民俗博物館ミュージアムショップ売場と石井根季氏情報による]

(須田孫七)



ご存じですか「県のチョウ」③

前回の続編として東北地方の追加と北海道の「自然シンボル」を紹介したい。

	道・県のチョウ	道・県の鳥	道・県の木・草
山形県	クロミドリシジミ (幼虫はクヌギを食べる) 	オシドリ	サクランボ ベニバナ(紅花)
秋田県	ベニヒカゲ (幼虫はヒメカンスグ、ホンモンシグ、 タニスグ、ミヤマカンスグを食べる 冰河時代の生き残りのチョウ) 	ヤマドリ	秋田杉 フキの薹 <small>とう</small>
岩手県	チョウセンアカシジミ (幼虫はトネリコ、コバトネリコ、 ヤチダモを食べる) 	キジ	キリ 南部赤松
青森県	ゴマシジミ (幼虫はワレモコウを食べる 4令幼虫 になるとクシケアリの巣に運ばれ、アリ の卵・幼虫を食べる) 	ハクチョウ	リンゴの花 ヒバ
北海道	エゾシロチョウ 幼虫はエゾノウリミズザクラ、リンゴ、 ヤマザクラ、シウリザクラ、サンザシ、 カイドウ、ナシを食べる 	エゾマツ ハマナス	タンチョウ

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

自然のたより

No. 291 2002. 12. 20
発行(財)武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」④

今回は甲信越・東海地方の「自然シンボル」を紹介したい。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草	
山梨県	フジミドリシジミ (幼虫はナ、イヌナを食べる)		ウグイス	フジザクラ カエデ
長野県	オオイチモンジ (幼虫はハコヤナギ、ドロノキ、ヤマナラシを食べる 高山県)		ライチョウ	シラカバ リンドウ
新潟県	オオヒカゲ (幼虫はカサスグ、シラスグ、ヒゴクサを食べる)		トキ	ユキツバキ チューリップ
静岡県	クロコノマチョウ (幼虫はシズグマ、ススキ、ツルヨシを食べる 南方系の種類だが気候変化により北方まで分布拡大中)		サンコウチョウ	モクセイ ツツジ
愛知県	アサギマダラ (幼虫はキショラン、カモメヅルを食べる 本州から沖縄方面まで「渡り」が確認されている)		コノハズク	ハナノキ カキツバタ

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

自然のたより

No. 292 2003. 1. 5

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
里外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」⑤

今回は東海地方の追加と北陸地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草
三重県	ミカドアゲハ (幼虫はオガタマノキ、クサンボクを食べる)	シロチドリ ハナショウブ	スギ
岐阜県	ギフチョウ (幼虫はカンアオイ類を食べる)	ライチョウ	イチイ レンゲ
富山县	ミヤマモンキチョウ (幼虫はクロマメノキを食べる)	ライチョウ	スギ チューリップ
石川県	コムラサキ (幼虫はヤナギ類を食べる)	イヌワシ	アテ クロユリ
福井県	ダイミョウセセリ (幼虫はヤマノイモ、オニドコロ類を食べる)	ツグミ スイセン	マツ

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

自然のたより

No. 293 2003. 1. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」⑥

今回は関西地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草
滋賀県	キリシマミドリシジミ (幼虫はクヌギ、コナラ等食べる)	カツツブリ	モミジ シャクナゲ
京都府	キマダラルリツバメ (幼虫はハリブトシリアガアリの巣の中にいる)	オオミサギドリ	北山杉 シダレザクラ
大阪府	カラスアゲハ (幼虫はキハダ、カラスザンショウ等食べる)	モズ	イチョウ サクラソウ
兵庫県	ヒメヒカゲ (幼虫はススキ、チジミザサ、ヒメカンスゲ、アオスゲ等食べる)	コウノトリ	クスノキ ノジギク
奈良県	ヤマトシジミ (幼虫はカタバミを食べる)	コマドリ	スギ ナラヤエザクラ

[参考資料は前号に準じる]

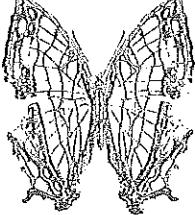
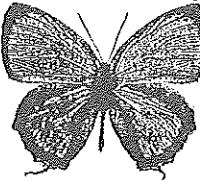
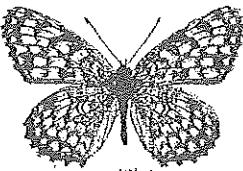
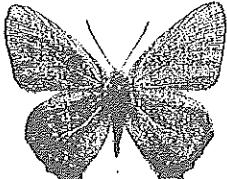
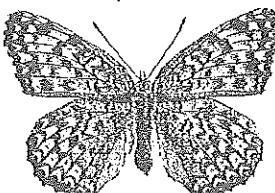
(須田孫七)

自然のたより

No. 294 2003. 1. 25
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」⑦

今回は関西地方の追加と中国地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草
和歌山県	イシガキチョウ (幼虫はイヌビリ、イチヅク、ガジュマルを食べる)		メジロ ウメ ウバメガシ
鳥取県	ヒサマツミドリシジミ (幼虫はカラシロガシを食べる)		オシドリ ダイセンキャラボク 二十世紀梨の花
島根県	ウスイロヒョウモンモドキ (幼虫はオミナエシを食べる)		オハクチョウ クロマツ ボタン
岡山県	ヒロオビミドリシジミ (幼虫はナラガシワを食べる)		ホトトギス アカマツ モモ
広島県	ヒョウモンモドキ (幼虫はノアザミ、マアザミ、タムラリウを食べる)		アビ モミジ

★毎号記載しているチョウ幼虫の食樹。食草は代表種です】

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

>>

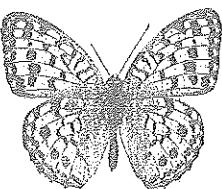
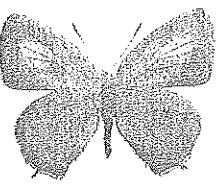
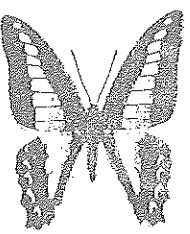
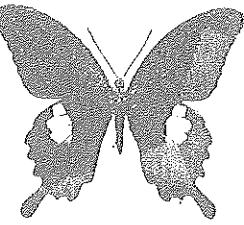
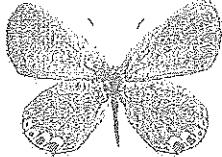
自然のたより

No. 295 2003. 2. 1

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 ☎ 0422-54-4540

ご存じですか「県のチョウ」⑧

今回は中国地方の追加と四国地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草
山口県	オオウラギンヒョウモン (幼虫はミレ類を食べる) 	ナベヅル	アカマツ ナツミカン
徳島県	ベニモンカラスシジミ (幼虫はコバノクロウメモドキを食べる) 	シラサギ	ヤマモモ スダチ
香川県	アオスジアゲハ (幼虫はクヌ、タブノキ、シロダモを食べる) 	ホトトギス	オリーブ
愛媛県	モンキアゲハ (幼虫はカラスザンショウ、キハダ、ミカン類を食べる) 	コマドリ	マツ ミカン
高知県	タイワンツバメシジミ (幼虫はシバハギを食べる) 	ヤイロチョウ	ヤナセスキ ヤマモモ

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

自然のたより

No. 296 2003. 2. 5
 発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
 野外活動センター
 武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

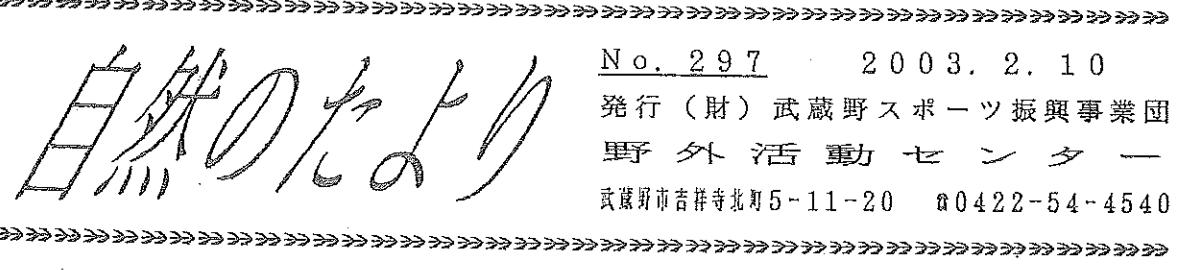
ご存じですか「県のチョウ」⑨

今回は九州地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草	
福岡県	クロセセリ (幼虫はミョウガ、ハナミョウガ、ケノトリを食べる)		ウグイス	ウメ ツツジ
佐賀県	クロツバメシジミ (幼虫はツメレンゲ、イタレンゲ、マツネングサを食べる)		カササギ	クス クスノハナ
長崎県	ナガサキアゲハ (幼虫はミカン類を食べる)		オシドリ	ヒノキ ツバキ 雲仙ツツジ
熊本県	オオルリシジミ (幼虫はクララを食べる)		ヒバリ	クスノキ リンドウ
大分県	メスアカミドリシジミ (幼虫はヤマザクラ、エゾヤマザクラ、オオヤマザクラを食べる)		メジロ	豊後梅

[参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)



ご存じですか「県のチョウ」⑩

今回は九州・沖縄地方の「自然シンボル」を紹介します。

	県のチョウ	県の鳥	県の木・草
宮崎県	タテハモドキ (幼虫はギンガム、イリダレリウを食べる)		コシロヤマドリ フェニックス ハマユウ
鹿児島県	サツマシジミ (幼虫はクロキ、ガマズミを食べる)		ルリカケス クスノキ カイコウズ ミヤマキリシマ
沖縄県	コノハチョウ (幼虫はオキナワスマシリウ、セイタカズスマシリウを食べる)		ノグチゲラ リュウキュウマツ ディゴ

都道府県の「自然シンボル」紹介は終了です。東京でチョウの標本を都道府県別に展示している施設はありません。分類順の展示は上野の「国立科学博物館みどり館」3階にあります。古い展示なので図鑑を参照しながら見ると良いでしょう。

鳥の標本展示施設は東京にはありません。分類展示ですが千葉県の「我孫子市鳥の博物館」に多くの剥製が展示されています。鳥類のみの博物館として唯一の施設です。以前から野外活動センターも資料寄贈等で協力しています。

都道府県の植物展示施設は都内にいくつかあります。栽培管理等の問題があるので展示は「県の木」「郷土の木」と樹木が主体です。

* 皇居東御苑／休園日・月・金／地下鉄東西線竹橋下車

* 府中市郷土の森／休園日・月曜日／西武多摩川線是政下車・徒歩20分

花期、紅葉、観学の詳細は電話、インターネット等で確認してください。 [参考資料は前号に準じる]

(須田孫七)

自然のたより

No. 298

2003. 2. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団

野外活動センター

武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 00422-54-4540

鉛の犠牲・水鳥の嘆き

そろそろ冬の渡り鳥が帰る時期になった。井の頭池の方そのうち毎年、何羽かシベリアに帰れず暑い夏を日本で過ごしている。なぜ帰れないのか??

昨年12月、野外活動センターの事業で白鳥ウォッチングを信州安曇野犀川で実施した。その際、地元の白鳥保護団体の方々から参加児童・生徒に「水鳥の鉛中毒」の講話があって子供たちは深いショックを受けた。話の内容は「人間の趣味の犠牲になってシベリアに帰れない鳥がいる」「多いのは魚釣りの重りに使う鉛を食べる。狩猟の散弾が体内に残り鉛中毒となる」「放置された釣糸にからまり飛べなくなる。釣針を飲み込み命を落とす」……と次々に原因が述べられた。

ではどんな事例があるか当日、保護団体の方から提供された「長野県内における水鳥の鉛中毒」を引用し参考としたい。

鳥の種類	性	年齢	内科療法		外科療法		どうぶつの病院
			保護年月日	場所	鉛	療法	
オオハクチョウ	♂	幼	93. 1. 29	犀川	重り	内	死亡
コハクチョウ	♀	成	93. 2. 7	犀川	重り	内	死亡
ホシハジロ	♀	成	93. 11. 26	犀川	散弾		死体
マガモ	♀	成	93. 11. 29	犀川	散弾	内・外	死亡
コハクチョウ	♂	亜成鳥	93. 12. 4	犀川	重り	内・外	回復
マガモ	♂	成	94. 3. 4	池田町	散弾	内・外	回復
コハクチョウ	♀	成	94. 11. 4	諏訪湖	重り	内・外	死亡
コハクチョウ	♂	幼	94. 12. 7	諏訪湖	重り	内・外	回復
コハクチョウ	♀	成	95. 1. 6	諏訪湖	重り	内・外	回復
コハクチョウ	♀	成	95. 1. 7	諏訪湖	重り	内・外	回復
コハクチョウ	♀	亜成鳥	96. 1. 18	犀川	散弾		死体
コハクチョウ	♀	成	96. 1. 22	諏訪湖	重り	内・外	回復
カルガモ	♂	成	96. 3. 27	犀川	散弾		死体
コハクチョウ	♂	成	96. 12. 20	犀川	散弾	内・外	回復
コハクチョウ	♂	成	98. 2. 28	諏訪湖	重り		死体
ミコアイサ	♂	成	99. 12. 12	諏訪湖	重り		死亡
ホシハジロ	♂	成	00. 2. 23	諏訪湖	散弾	内	回復
コハクチョウ	♀	幼	00. 2. 26	諏訪湖	重り	内・外	回復
カルガモ	♂	成	00. 3. 10	犀川	散弾	内・外	死亡

井の頭池では散弾の犠牲はないと思うが魚釣りの被害は無いとはいえない。渡り鳥が羽をそろえて帰れるのはいつの日だろうか。

(井口豊重)

自然のたより

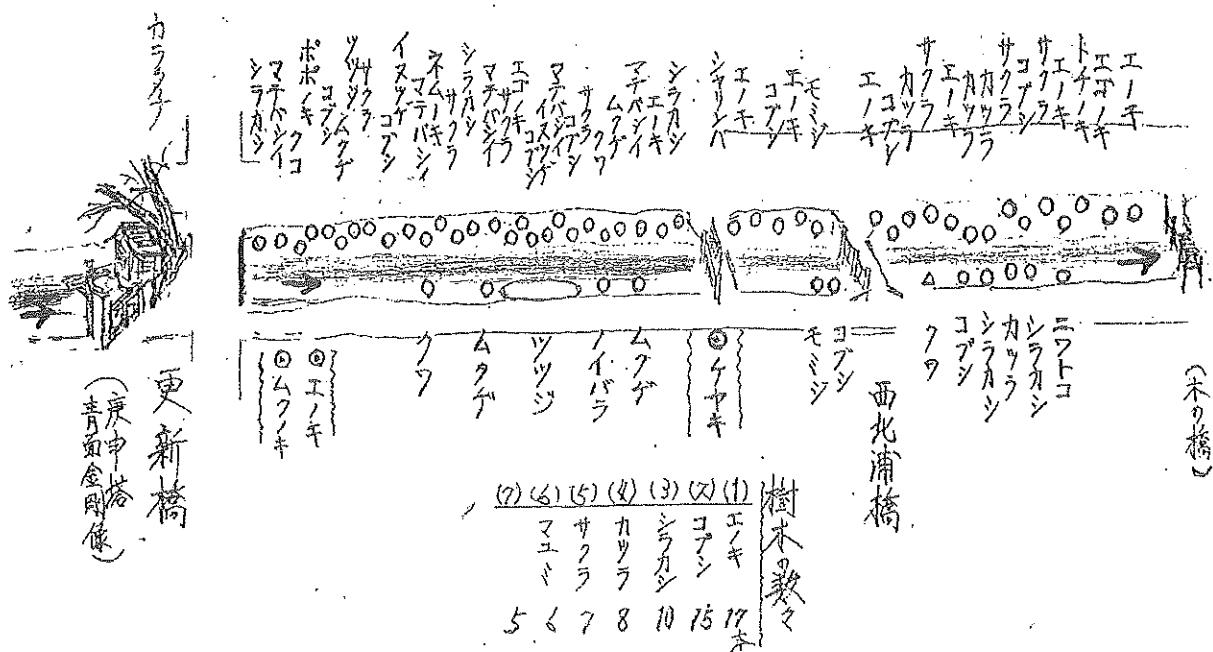
No. 299 2003. 3. 5
発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

千川上水樹木しらべ ①

先日、「けやきコミュニティ・協議会・千川プロジェクト」2003年3月作成の上記標題印刷物を入手した。内容は「けやきコミセン地域」に流下する千川上水の樹木調査結果であった。市民散策の伴侶となるので「自然のたより」に転載をお願いしたところ快諾を得たので数回に分けて紹介したい。なお、引用した文章は原文のまま転載したが、配列等は都合により多少リライトした。

[編集委員]

まちの中にまだ豊かな樹木がある
まだ畑作地帯もある
そして千川上水が流れている
季節に合わせてさまざまに美しいこの地域の大切な自然を
なつかしいふる里のように
いつまでも豊かに残したいとの思いが引き継がれて
けやきコミセン千川上水プロジェクトチームが
息の長い活動を続けています
たくさんの人にも伝えたいと 次々に楽しい企画が生まれてあります



自然のたより

No. 300 2003. 3. 20

発行 (財) 武蔵野スポーツ振興事業団
野外活動センター
武蔵野市吉祥寺北町5-11-20 0422-54-4540

千川上水樹木しらべ ②

千川上水の周辺をお散歩してみると、

あまり普通の住宅の庭には植えられていない草木が目につきます。

クワ、エノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ニワトコ、クサギ、クコ、
イボタノキ、コナラ、カラスザンショウ、ムクノキ、ミズキ・・・。

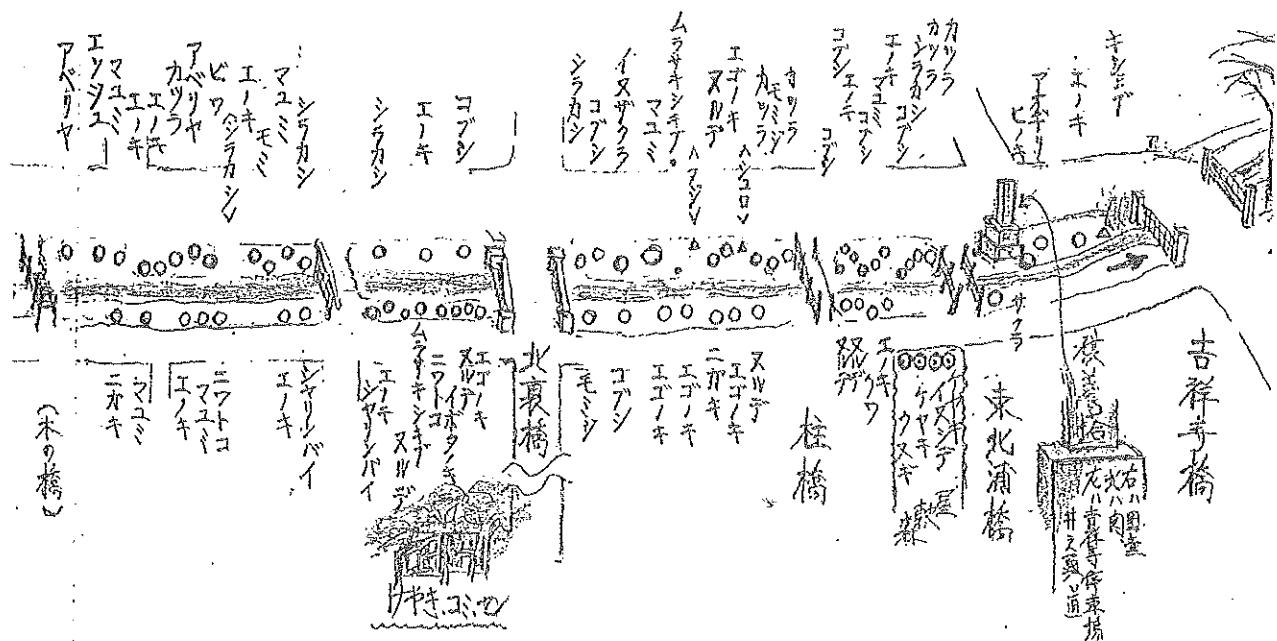
いつごろから生えていたのでしょうか。

川沿いのかぎられた場所で 気ままに生き延びていた この地域に
残された自然なのでしょうか。

そんな植物が、古くから人の暮らしの中で 利用されていましたこと
がわかりました。.

”千川上水の草木と友達になろう”

をテーマに自然が大好きな仲間達が、樹名板の取付けや
植物調べを続けてあります。



(けやきコミュニティ協議会千川上水プロジェクト)